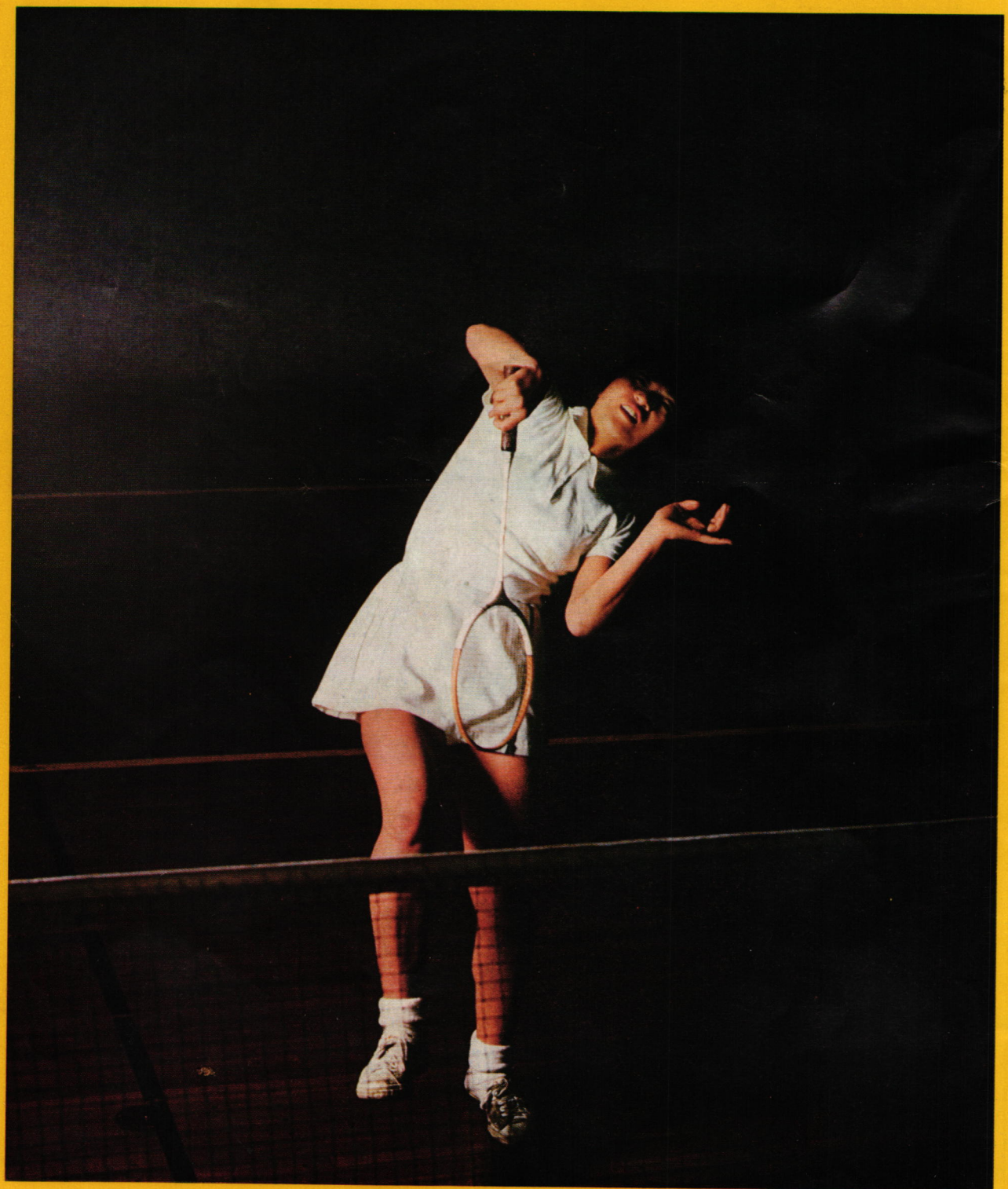
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和46年8月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.24
8 1971



No.6000 FIVE ACE DELUXE



テクニックが冴える

ガット有効面のひろがり

〈バドミントンを科学する〉ヨネヤマのラケットは、ガットの有効面積が、広く設計されている。だから、どこで打っても、シャトルを鋭くとらえる。テクニックが、冴える。狙いに、くるいがない。シャトルとラケットの、一瞬の出逢い。この一瞬を、科学した結論です。ヨネヤマは、カンと経験だけを、頼りにはしません。あくまでも科学的に、探ぐり、割りだして、ラケットを造っているのです。

No.6000ファイブエースデラックス/￥3,500(フレームのみ)

ヨネヤマラケット

本誌講読料改訂のお知らせ

11月1日から 一部百三十円 年間契約千五百円に

郵送料の値上げコスト高で

本誌は創刊以来、日本で唯一の総合的バドミントン競技月刊誌として、内外の愛読者各位より、広くご支持を受けて、発展してまいりました。

この間、ご存知のように、ページ数もふえ、写真等をできるだけふやすことを中心に、内容の充実を心掛けてまいりましたが、これにともなって、製作費も上昇することになりました。

一方郵便料金の値上げにより、一部十円だった送料が、七月一日から一部二十円に改訂（第三種郵便物）されました。

本誌では、年間契約の愛読者については、郵送料を本誌側が負担してきましたが、一部二十円の送料を今後も負担し続けることは、むずかしい情勢となりました。

このため、本誌では、十一月一日以降の講読料金を次のように改訂いたしますので、事情ご賢察の上、今後いっそうのご愛読とご支援をお願いするしだいです。

一、一部誌代　百三十円
　同　送料　二十円
一、年間契約一部（送料とも）
　千五百円
（年間契約では一年につき三百円おとくになります）
一、実施期日　46年11月1日
（十月三十一日までの申込み、または現在、契約中の場合は、契約切れまでの間、現行料金です）

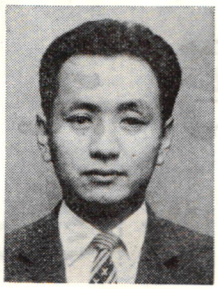
私のひとこと

読売新聞
小林範夫

〝見せる〟競技会を

観客への配慮、発展への道

七月二十六日から三日間、東京で開かれた全国中学生大会を見た。さして広くない東京体育館に十二面のコートがつくられ白一色のユニフォームを着た選手が、これまた白いシャトルを追って交錯する。三十度を越える暑さのせいもあったが、こうあちこちでやられては目の焦点が定まらない。見ているうちに何かボーッとして「試合を見ている」という気がしなかった。



スタンドに湯木博江選手の姿を発見したので「目立った選手はいますか」とたずねたら「二、三人いたんですが、名前がわからなくて」と困った表情だった。

アマチュア・スポーツ界は、かって「大会は選手たちが公正、かつ気分よくプレーできるよう運営すればいい」という風潮が支配的だった。だが、最近の大会運営は、観衆を無視しては考えられなくなっている。大衆の支持がなくては競技の発展は望めず、うかうかしていると、他の競技種目に若い芽をどんどん奪われてしまうからだ。「魅力ある競技会を演出して観衆を集め、入場料収入をあげてそれを選手強化につぎ込み、さらに高度の試合を見せる」――競技会の運営に対する考え方が昔とはかなり違ったものになってきているといえるだろう。

このさい、バドミントンの競技会を、見る方の立場から考えてみよう。中学生大会にかぎらず、ほとんどの大会が複数のコートを使って行なわれる。この場合困るのは、たまたま目をつけた試合が、何回戦なのか、選手の名前は、そしてそれまでの経過はどうなのか――といったことが一見しただけではわからないということだ。見る方は専門家であるはずのスポーツ記者でさえ、わからないのだから、一般の観衆は相当の不便を感じているに違いない。

そこで「わたしの提案」をひと言。まず、選手の背中に名前を書こう。野球の選手のようにローマ字でもいいし、プロボウラーのように、しゃれた字体の漢字でもいい。もし不可能なら胸や袖の代表になったような一流選手は肩か胸に金色のテープかリボンをつけて区別するくらいの配慮がほしい。

つぎに、審判台の近くに何回戦であるかを表示し、どちらがインサイド（サーブする側）かをランプなどで示す装置を考えてみたら……。

さらに、陸上の通告員のように、選手を紹介し、成績を知らせると同時に、解説をして観客の興味を盛りあげる〝係り〟をつくったらどうか。落ちついた声と小さな音量のスピーカーなら邪魔にはならないはずだ。バドミントンを、〝魅力ある競技会〟にするためにみんなで考えよう。

今月号のダイジェスト

★特集・中国問題を考える　今春の〝ピンポン外交〟いらいはなばなしく話題となっている中国問題は、ニクソン米大統領の訪中決定で、ひとつの頂点に達した。

日本スポーツ界の動きもこれにつれて日毎に活発化している。本号締切りの時点で、まだ交流を決めた競技団体（卓球以外）はないが、早晩、続出するだろう。

バドミントンでも、ようやく七月の日本協会総会で、「日中交流部会」の設置がきまり、交流についての諸問題の研究に乗り出すことになった。

各界はどう動いているか、前途にはどんな問題があるのか、さまざまな角度から、この問題にメスを入れてみた（P2～）

★初の全国中学生大会開催　全国の関係者待望の中学大会が他競技に遅れること一年、今年からようやくスタートした（東京体育館）府県対抗の団体戦の形で行なわれ、男子は滋賀、女子は大阪が初の栄冠を獲得した。初めての大会だったため、今後の反省資料も多い。関連写真グラフもワイドで8ページを組んだ。（P32～）

★連載の小島はなぜハルトノに勝てないか　前号で口火を切った小島選手本人と内藤安雄氏の対談第二回。話はいよいよ佳境にはいる（P14～）

★バドミントン選手の体力は　日体大研究室が、今春、五つの体育のクラブの女子選手の体力側定を実施した。このときのバドミントン部員五人の体形的体力的特徴にメスを入れてみると、さまざまな興味あるデータが出てきた。

バドミントンは化学的研究で立ち遅れ、この種データが少いので、貴重な資料でもある。（P8～）

★全国高校選手権地方予選　前号レコード欄にも一部をのせたが、締切りまでに各県から寄せられた予選記録をレコード欄で特に収録した。（P39～）

★そのほか　読者の広場などのスポーツ界こぼれ話、私のクラブ、連載・シャトルの話などおもしろい読みものがいっぱいなお、告知板では、日本協会の総会決定事項をダイジェストした。関係方面の各位は、お忘れなく、ご一読を

問題を考える

ポーツ界とバドミントン

〝ピンポン外交〟からニクソン米大統領の訪中決定――世界の関心をいまや一身に集めたかの観があるのが中国問題。

今春、卓球の世界選手権大会に中国が登場することが決まって以来、だれとはなしに、「71年は中国の年」、というようになった。

事実、この数カ月の中国をめぐる国際情勢の変化はまことにめまぐるしく、カラスの鳴かない日はあっても、新聞紙上で中国関係のニュースが載らない日はない。

とくに、スポーツ界でも、中国がスポーツを外交路線に乗せていることがはっきりしてから中国との交流を望む声が日増に強くなっている。

こうした情勢下で、バドミントンもただ坐しているわけにはいかず、七月の日本協会総会で「日中交流部会」の新設を満場一致、決定。前向きの姿勢で問題研究にあたることになった。

交流するといっても、もちろんそう簡単ではない。いわゆる周三原則と台湾の処置を中心にかなり多くの問題がある。

このさい、バドミントンはいかにあるべきか。答えは新設の交流部会にゆずるとして、日本協会の考えと課題、その他のスポーツ界の動き、中国のスポーツ事情など、広い範囲から、材料を拾いあげ、参考にすることにした。

「日中交流部会」を設置、研究

①《バドミントン自身の動き》

日本協会の理事会と総会での決定論議

日本協会は、七月十八日の総会で、新たに「日中交流部会」をつくることに決めた。

総会と、これに先き立つ理事会では、まず石川県代表から「このさい、早急に交流を推しすすめるべきである」という提案があり、これに愛知県からも賛同があり、共同提案のかたちで論議が進んだ。

この結果「早急にことを急ぐのは無理な点もあり、前向きの姿勢をとりながら、広く資料を集め、情勢を研究すべきである」ということになった。

部会は菊地総務委員長を中心に人選される。論議の途中では「執行部が、部会の出す結論にしばられず、フリーの立ち場で事柄を判断できるよう、執行部を入れず、部の性格は諮問機関的なものにする方がよい」との意見が強かったが、最終的な部の編成は、菊地氏に一任された。

七月中に人選、本人の内諾を得て、スタートするが、人数は協会執行部、学識経験者、各組織代表等から約十人になる見込みである。

スポーツ界の交流についての動きはほかにもあるが、正式機関をつくったのは、すでに交流

特集

中国との交流

激動する国際情勢とス

のある日本卓球協会をのぞくとバドミントンが初めてである。

これにより、バドミントンの動きは、報道機関から、にわかに注目を集めることになった。

中国かなり自信持つ
後藤愛知会長の訪中も刺激
内外の情勢分析と問題点について

バドミントンの中国との交流問題は、非公式には、やはり今春からあった。

それは、中国との交流が望ましいのではないか、という考え方、あるいは、交流できる可能性があるか、という一部、協会関係者の考え方から出てきたものが一つ。さらに、中国関係筋の第三者から協会関係者への働きかけがもう一つ。

もちろん、ともに、情勢判断、意向打診といったていどのことであったが、こうした動きの中で、執行部は「やる、やらないの論議の前に、まず、中国の情勢を知ることが大切」という基本線で一致した見解を持った。

やがて、日本卓球協会の後藤会長が、訪中から帰国し、羽田空港での記者会見で、バドミントンの交流は有望である」との情報を披露した。

こうしたことから、バドミントンでも日中交流についての関心が高まり、第三者の注目をあびるようになった。

後藤・日卓会長は、愛知県バドミントン協会長でもあり、深い関心をバドミントンにも寄せている。

そこで、訪中のさいに、バドミントンについての初歩的打診をしたわけだが、同氏筋が伝えるところを要約すると

(1)中国のバドミントン協会の最高責任者は、四月に卓球選手団の団長として来日した趙正洪氏である。

(2)中国のバドミントンは、かなり強く、先方は自信をもっているようだった。

(3)日本との交流には、日本がその気なら、応ずる用意があると見た。ただし、交流の条件はいわゆる卓球方式、つまり周三原則を日本が受け入れることである。

(4)日本の情勢についても、かなりくわしく、甲府で七月下旬に開かれた社会人選手権に、台湾からの代表が参加することも知っていた。なお、日本協会の考え方などについても、かなりの知識がありそうだった。以上のようなことである。

焦点は三原則と台湾
今後の論議なお曲折か

さて、バドミントンは中国と交流するのか。理事会と、総会の席上では「しない」という意見は、ひとつも出なかった。

今後のことは、部会の研究討議に待たなければならないが、さし当たって、問題として考えなければならないのは次の三点と思われる。

1 周三原則について

2 関連して台湾への対処

3 交流へのメリット(利点)

政治、経済などの各界の動きをふくめ、中国問題をひとくちにいってしまうと台湾問題ということになる。

中国の主張は「台湾は中国の一部であり、従って〝二つの中国〟とか〝一つの中国〟〝一つの台湾〟というものは、あり得ない」ということである。

いわゆる周三原則も、話はこれにつきる。こうしたことを、日本協会が、どう考えていったらいいか。スポーツが政治にまき込まれる——という意見もあるだろう。しかし、スポーツも人間の生活の一部、つまり〝社会現象〟である以上、政治とスポーツを全く別世界の問題とすることはできない。これも一つの考え方になる。

つぎに、日本と台湾との間の問題がある。日本と台湾とは長い間の友好関係にあり、中国と仲良くすることが、そこにどんな影響をもたらすのか。

台湾そのものはIBF(国際バドミントン連盟)に加盟しており、IBFやその地域連盟などが主催する国際競技会で、今後とも顔を合わせることになるさらに、中国と日本の交流が、実現した場合、他のアジア各国の協会に、これがどう影響するかも、研究が必要だろう。

第三の、交流による利点はどうだろうか。

情報によると、中国のバドミントンは、かなり強そうであるということは、交流すれば、日本の選手のレベルアップにも役立つわけだ。

その点では、確かにプラスである。



バレー交流は近い？

～水陸なども促進に熱心～

②≪他のスポーツ界の動きから≫

スポーツ界で、いち早く中国との交流に糸口をつけたのは、バレーボールだった。

卓球の世界選手権大会が開かれている最中、日本バレーボール協会の岡田理事長、松平副理事長が名古屋を訪れ、中国チーム首脳に「交流をしたい」と申し入れた。

その後、ユニチカの原・前会長（現・日本貿易振興会会長）を通じ、女子のナンバーワン・チーム、ユニチカが中国訪問を積極的に押し進めていることが明らかになった。

この間、バレーボール協会では首脳部が、さきに中国を訪れた後藤・日本卓球協会会長に、交流の打診を依頼したといわれる。

バレーと中国の結びつきは古く、一九五七年以来、全日本級男女チームが延べ五チーム遠征し中国からも六四、六六年の二度各男女チームが来訪している。

また、東京オリンピック後、大松監督（現参議員議員）が四度も訪中して、両国の交流にひと役、買っている。

もちろん、中国のバレーはレベルもかなり高く、交流を復活することは、選手強化にとって非常にプラスである、との判断が協会幹部の中にある。

こうした事情から、バレーボールは、できるだけ早く交流を結びたいと、幹部の意志を統一しつつあり、この記事が目にふれる時点では、すでに結論が出ているかもしれない。

バレーの交流については、中国側も、かなり乗り気であるといわれている。

中国は一九六二年の世界選手権を最後に、国際舞台から姿を消し、昨年九月、ブルガリアで開かれた国際連盟（ＩＦ）の総会で、台湾の加入が承認されたことを理由に、翌十月、国際連盟からの脱退を表明した。しかし、国際連盟は「文書で正式の届け出が来ていない」として、これを保留したかたち。まだ、加盟していることになっていや、いざ試合をやってみたら日本がこてんぱにやられた、などということが、あるかもしれない。

ただ、日本は来年六月に、ユーバー杯の開催をひかえている。ただでさえ組織力があるとはいえぬ日本協会が、早急に交流試合に踏み切れるかどうか。

もちろん、交流というのは、トップ級の試合だけではなく、いろんなかたちがあるから、ひとくちにはいえないのだが。

そのほか、ＩＢＦ、日本体協などとの関係がある。

ＩＢＦは、非加盟国（中国など）協会との親善交流については寛大で「よいことなら、おやりなさい」という方針だ。

日本体協は、中国との交流については、公式に機関で、態度を打ち出したことはない。そして「各ＩＦ（国際連盟）のルールに従い、それに違反しなければ、交流はしてもいいのではないか」（青木半治専務理事）と各競技団体に判断をまかせている（七月二十七日付けサンケイスポーツ）

したがって、これらの面では大した障害はなさそうだ。

さらに、バドミントンとオリンピックの問題も、一つ研究の材料になる。

バドミントンがミュンヘン五輪の公開演技に決まり、次期モントリオールでは「正式種目に」という噂や、その次にインドネシアが立候補するので「実現するだろう。そのために同国のソネビル氏をＩＢＦ会長にしたのだ」という観測がある。

一方、外電では中国がオリンピックに復帰するかもしれないとのニュースが伝えられている。これら一連の動きは、日本の中国との交流に、どう影響するのか――。

る。

このバレーについで、動きの早かったのは、陸上と水泳。河野日本陸連会長（現参議院議長）と田畑日本水連名与会長（日本体育協会副会長）が、やはり四月、中国卓球チーム代表に、交流を申し入れた。

水泳は、中国の文化大革命前、通信競技会（両国がそれぞれ一定の時期に競技会をやり、記録を交換して、成績をきそう）をやる約束をとり交わしたことがある。

しかし、文革の影響で中国側の体制や責任者も変わったため中国側としては、もし交流する場合は、改めて、やり方を研究する、との考え方らしい。

陸上、水泳の話が、バレーほど簡単でなさそうなのは、この二競技の国際連盟が「加盟国以外のものとの交流を禁止する」のに、かなり強い態度をとっているからだ。

そして、中国は両国際連盟から脱退しているからだ。

（注）中国スポーツ界で、国際連盟に加盟している種目はスケート、卓球、バレーだけ。もちろんオリンピックの総本締めであるＩＯＣ（国際オリンピック委員会）からも脱退している。

五輪参加を打診か
西独報道、当局は否定

最近の新聞に報道された、中国をめぐる内外の動きを集めてみると――

まず五輪問題については、ミュンヘン、札幌の大会に中国参加の可能性があるとのニュースが出てきた。

七月二十九日フランクフルト発ロイター＝共同電によれば、西ドイツの社会民主党アドルフ・ミュラーエメルト議員は、二十九日のフランクフルト・ルントシャウ紙とのインタビューで「中国はミュンヘン五輪の組織委員会当局者と、興味ある接触を行った」と述べたむね、伝えている。

同議員は西ドイツ連邦議会スポーツ・オリンピックのメンバーでもあり、同氏によれば「中国が来年のオリンピックに参加するかどうかは、主として中国自身の態度にかかっており、ＩＯＣ（国際オリンピック委員会）の承認は二義的な問題にすぎない」とのこと。

中国は一九五八年にＩＯＣを脱退しており、オリンピックに参加するには、ＩＯＣに復帰した上、関係競技のＩＦに加入または復帰しなければならない。ＩＯＣのブランデージ会長は最近「ＩＯＣは中国に門戸を開放している」と言明している。

また前出のフランクフルト・ルントシャウ紙は、これに関連して「中国は来年の札幌五輪に参加を申し込むと思われる」と述べている。

もっとも、翌三十日ミュンヘン発ロイター＝共同電は、ミュンヘン五輪組織委員会のスポークスマンが「このニュースを否定した」と伝え「間接、直接にせよ、中国スポーツ関係者と接触はない」と述べている。

中国をめぐるスポーツ界の動き
最近の新聞から

中国バドミントン 11月カナダへ

バドミントンの中国代表は六月に北朝鮮を訪問しているが、オタワ七月二十八日発ロイター＝共同電は「カナダ・バドミントン協会は二十八日、中国が同協会の招待を受け入れ、二選手を十一月にカナダへ派遣すると発表した、と報じた。

同協会のポリンスビー理事長の話によると、選手の氏名はまだ確認されていないが、カナダの一流選手を加えたエキシビションが、十五から二十回ていど予定されているという。

破れるかＩＦのカベ
秋の国連待ちムードも

しかし、ＩＦが、ゆらぐ国際情勢の中で、いつまでも強い態度をとり続けていけるかどうかわからないし、また田畑氏などは「中国との交流を特例的にでも認めさせるよう、努力を続ける」といっている。

競技団体そのものではないがサッカーでは横浜高校チーム訪中の動きがあり、これについて竹腰・日本蹴球協会理事長は「協会としては何も決めていないが、悪いことではないし、またＩＦも、これに文句をいうとは思えない」と、いわば黙認？の方向を示唆している。

一方、中国自体のスポーツ界事情は、次ページが伝えるように、かなり活発化しており、体操、バレーなど数種目については、日本のトップレベルの競技フィルムを取り寄せて、研究したいという姿勢らしい。

近い将来、沈黙を破って名乗りをあげる競技も出るだろう。また、日本の競技団体の中にもまだまだ、国際情勢の推移によって、考えるというところがありそう。今秋の国連総会の時点前後がまず注目される。

このほか、七月二十日に飛鳥田横浜市長が記者会見して語ったところでは、横浜の高校生サッカー・チームが、上海市の招待で中国を訪問できるだろう」とのこと。

横浜は、さきに労働者代表団（岩井章団長）が訪中したさい伝言を託し、横浜と上海の姉妹都市提携を申し入れた。これに中国は好意的で、さし当たり横浜のサッカー・チームを中国へ招待したいとの返事があった。

一方、中国づいている米国では、八月に訪米が予定される台湾卓球チームとの対戦を拒否する動きが出ている（七月二十二日ユージン発ＡＰ電）理由は台湾がＩＴＴＦ（国際卓連）のメンバーでないため、とのこと。

着々と進む 中国のスポーツ外交 ④

勝負より友好第一
バスケット、陸上にも成果

名古屋の世界選手権を舞台に発展した中国の卓球外交は、ニクソン米大統領の訪中という世紀のニュースを実らせたが、最近の中国スポーツ界はさらに活発な動きをみせ、現在も陸上、バスケットなどの競技が世界各地へ友好親善のために遠征。今秋にはいよいよ卓球チームの訪米が実現しそうだ。

国内的にも各種組織が完全に整備され、体力づくりが国家的な規模で進められている。七億五千万人の人民にささえられ、たくましく躍動する中国スポーツ界の現状をみた関係者の話をもとにスポットをあててみよう。

文化大革命後の中国は、スポーツを「革命的外交路線の一環」と明確に定義づけ、すべての国際交流は、この路線に基づいて進められている。中国にとりスポーツ外交がいかに重要であるかは、卓球の世界選手権一つをみても明らかだが、今春以降、赤い星の国の選手団は、いっせいに活動を開始し、絶え間なく世界をはばたいている。

五月にはまず女子バスケットチームが、キューバを起点にチリ、メキシコなど中南米を二カ月にわたって転戦、入れかわりに男子バスケットが中南米へ。

世界の王座に返り咲いた卓球は、エース李富栄ら八選手が現在アフリカからアラブ連合、セイロン、パキスタンを長期転戦中である。

また、世界的な関心を寄せられている陸上チームも、走り高とびに2メ29の世界新をマークした倪志欽らが、百メ10秒0の陳家全にひきいられアルバニアに遠征中だ。

バスケットも陸上もIF（国際競技連盟）から脱退中のため、本来なら国際試合はできないはずだが、いまや中国にとって、そんな規律はたいした障害でないようだ。現にバスケットは大手を振って各国とゲームを重ねているし、当然のことながら強大な国家の力の前には、IFの取り決めなど、なんの効力もないようだ。

いま、注目されるのは、アルバニア遠征中の陸上チームが、もっとも規則にやかましい国際陸連のカベを打ち破り、国際レースに登場するかである。

文化大革命のアラシを乗り切った中国スポーツ界は、このようにたくましくよみがえったが、次第を重ねた四年の間に大きな変容をとげた。まず、かつては北京でガネホ大会まで開催した重量あげは中国から姿を消してはやるが、絶食したりして無理に体重を落としたりすることは、人民の体位向上という趣旨に合わない」（村岡日中文化交流協会事務次長）というのがその理由。広いスペースを必要とするわりに少数の人間しかプレーできないという理由から、テニスも同じ運命にあるという。

反対に大いに奨励されているのはマラソンに登山、それに水泳と隊列を組んでの徒歩など。「相互支援」「相互学習」「相互協力」をテーマに、大衆体育と軍事体育の併用も中国スポーツの特徴で、小学生のときから整列などの軍事体育が取り入れられている。

七億人民に対する体位向上も積極的に推進されており、昨年は上海市だけで卓球大会に延べ百万人もの大衆が参加した。子供たちには各都市に業余学校があり、専任コーチが一日二時間の指導と、二十分にわたる毛語録の学習を行なう。入学資格を持つ年齢が文革によって、十一歳から七歳に引き下げられたのをみても、中国政府の力の入れようがわかる。

文革によって選手の心がまえも変わった。第一のスローガンは、卓球で有名になった「友好第一、試合第二」である。また、どの競技場にいっても「体育活動を発展させ、人民の体位を向上させよう」との毛主席のことばがかかげてある。

各選手は政治、労働、大衆からの離反を「三離脱」と呼び、エリート化につながるものと、きびしく自己をいましめている。走り高とびの倪選手が「記録を作ることは大きな目標の一つだが、私の本質的な仕事は、人民の体力を向上させながら、ともに働くことです」と語ったことばが、現代中国の第一線選手像を象徴しているといえる。

七月二十八日付け東京新聞から

小島一平、栂野尾昌一（ヨネヤマラケット）の両選手は、最近、カナダのカルガリで開かれた国際競技会に招待されたが、このほど帰国。

小島選手は、「現地でも、中国問題になっていた」と次のように語った。

各国選手の関心の深さは相当なものがあり「中国との交流をどう考えているのだろう」とか「日本ではどう考えているのか」などと聞かれたりもした。逆に自分たちの勉強不足を痛感させられた。

水曜スポット



人間は何かを見失っているようです

スコーレ

●scholeギリシャ語●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源—岩波哲学辞典より
●古代ギリシャ人はスコーレをすべての文化の根源と考えていた●スコーレは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコーレとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコーレ

テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコーレを拡大するテイジン

天然資源開発　アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業　世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業　豊かな生活環境、新しい生活行動パターンの創造。ファッションから産業資材まで
海外事業　人類の衣生活充実。世界10余か国へ進出。ポリエステルなどの生産技術で各国に協力
情報産業　知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業　未来の生活を支えるエンジニアリング・プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業　健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業　人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで

表1. バドミントン選手の体力

	筋力							パワー	呼吸循環系		敏捷性			柔軟性	
	背筋力	握力		屈腕力		伸脚力		垂直跳	肺活量	H.S.T.	S.S.	B.T.	全身反応	上体そらし	体前屈
	(kg)	(右)(kg)	(左)(kg)	(右)(kg)	(左)(kg)	(右)(kg)	(左)(kg)	(cm)	(c.c.)	(点)	(回)	(回)	(msec)	(cm)	(cm)
バドミントン選手	123	40.6	31.6	21.3	19.1	48.4	48.6	44	3140	106	40	6.8	270	54	15.1
日体大I.C.選手	113	38.5	31.9	19.1	17.4	42.6	43.5	44	3147	99	39	6.2	276	56	13.9
一般学生（20才）	83	28.5						37	*2027	58	36	*5.4		57	17.2

一般学生……文部省体育局の体力・運動能力調査報告書による
※最新体力測定法　名取礼二他による
（呼吸循環系　20～24才の平均値
B．T　17才の平均値）

バドミントン選手の体力についての一考察

日本体育大学助手　関根義雄

すぐれた心肺機能、敏捷性

日体大6クラブの女子選手と比較して

日本体育大学では、毎年四、五月に各運動部選手の体力測定を実施しております。今回はバスケットボール、ハンドボール、ソフトボール、卓球、庭球、バドミントンの六つの部の女子部員の中から、監督の先生方に、特に優秀な選手を五名ずつ選び出していただき、比較検討してみました。

まず簡単に図の説明をしておきます。

T得点とは、被験者全体（上記の六つのクラブ）それぞれの種目の平均値を50点とし、被験者（バドミントン部の平均値）の記録が平均点よりも上回っていれば、50＋α低ければ50－αで表わされます。

これは異った種目を同一の尺度で評価するために、点数に換算したものです。

このT得点では、最高は85点で、最低は25点ぐらいの間に位置されます。また、真ん中の円が六つのクラブの平均値（50点）になっております。

【形態的特徴】　図1は選手の身体の形を調べたものです。

筋肉は使えば太くなりますが全体的にみて、上半身より下半身が発達していることがわかります。バドミントン競技のフットワークの重要性が痛感されます。

また、腕における左右のアンバランス（右腕が発達）や「バドミントン界5号」で報告されている通り、身長に比較して指極の大きいことが、特徴であると思われます。

【体力的特徴】　図2と表1をごらん下さい。

それぞれのクラブが、インカレ、関東学生リーグ等でトップ級として活躍しておりますが、その各部選手たちに比較してもほとんどすべての項目においてバドミントン選手の方がすぐれていることがわかります。

〈筋力系〉　握力の左以外、すべての項目について優れております。握ることと、手首を返すことは、全く同じではありませんが、同じ要素が多分にあります。これが左右の差となって現われたのだと思います。

しかし、トレーニングをするときには、やはり握力をつけることよりも、手首の返しのトレーニングをした方が無難だと思います。

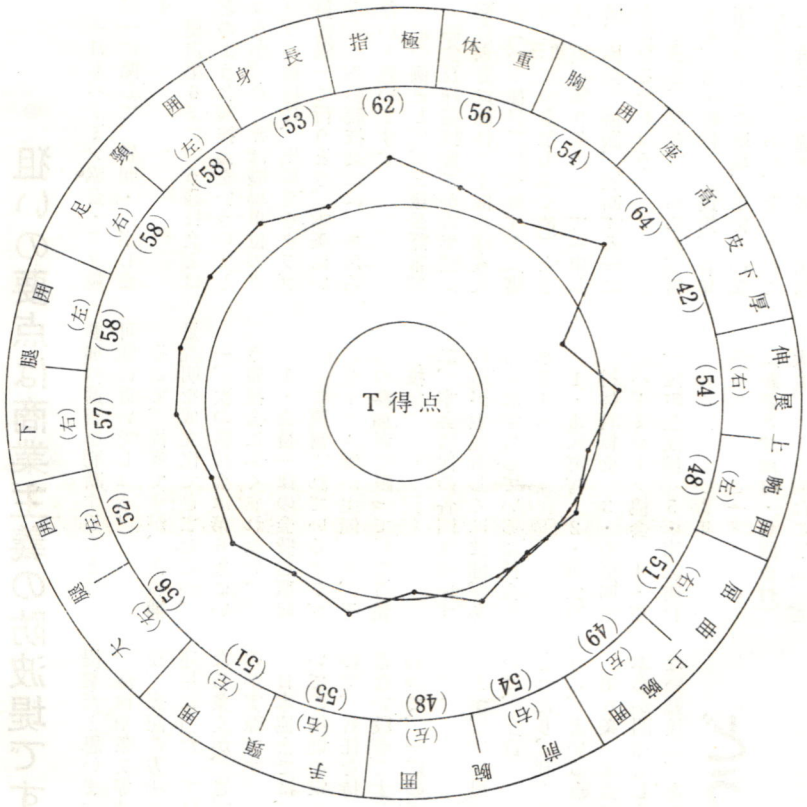
〈パワー〉　パワーをひと口に説明すると「力×スピード」つまり、速く大きな力を出すことです。

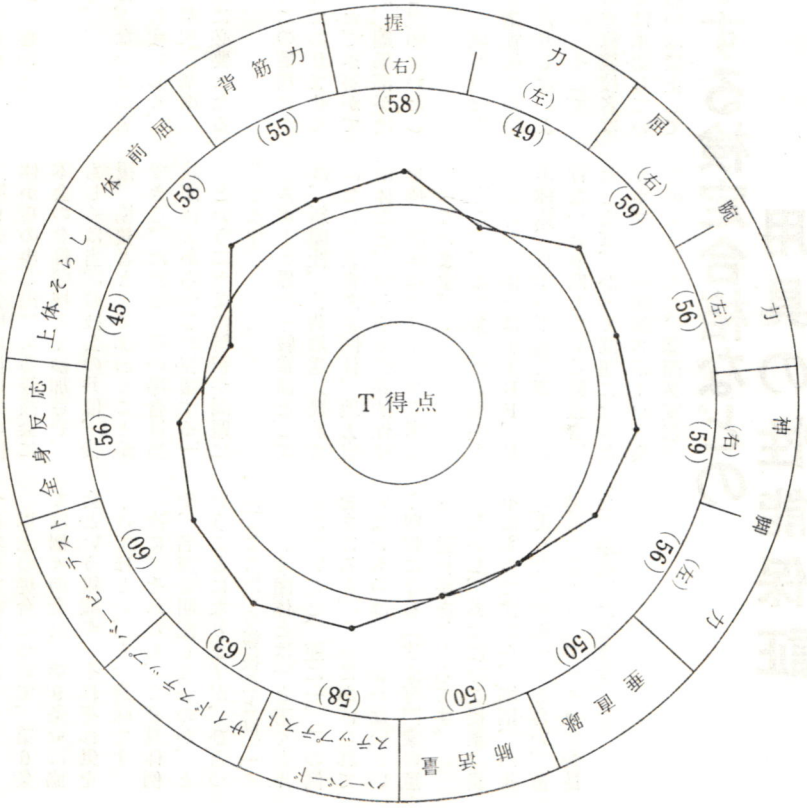
一項目の測定ですので、結論ずけられませんが、伸脚力が大きいのに、垂直跳が他のスポーツ選手と変わらないのは、この競技が前後左右の平面的な動きが多い割りに、ジャンプすることが比較的少ないせいもあるでしょう。

ともあれ、より早く動くにはより大きな脚パワーが必要になってきます。

〈呼吸循環系〉　肺活量は他のスポーツ選手と同じくらいですが、心肺系の効率を表わすハーバード・ステップ・テスト（HST）は、すぐれています。

よくマラソン選手の心臓を持つことの必要性がいわれておりますが、これで、この意味がおわかりでしょう。





〈敏捷性系〉 一番の特徴は敏捷性を現わすサイド・ステップ（SS）バービー・テスト（BT）全身反応時間（ある制激に対して行動を起こすまでの時間で、千分の一秒単位で表わされる。今回の測定はランプがついてから、跳び上がるまでの時間）がすぐれていることです。

バドミントン競技は、コートが狭い上に、スピーディなので第一歩のスタートの速さが、他のスポーツにくらべて、より重要です。

そこでバドミントン競技に、より近い形でのトレーニングを続けたら、効果もさらに大きくなることでしょう。

〈柔軟性系〉 ネット近くで上体が極度に折れ曲ることについては、良いことだとは思いませんが、競技中には、よくおこる状態です。

それに対しては脚力でカバーする点もあります。しかし逆に極限まで後ろにそることは少いということが数字になって現われたものと思います。

アマ規定に対する疑問と提案

●狙いの要点は商業主義の防波堤です●

「日本バドミン協会・アマ規定」に関して、質問・提案します。

規定第6条にいう競技会とはどのような競技会をいうのでしょうか。たとえば職場単位のクラブが独自に、出場者をクラブ員に限って行うとき、本条にいうところの競技会には、あたらないと思います。

別の例として、三級公認審判（協会登録競技者）が青年団（協会未登録団体）主催の球技大会（バド種目）に出場する（審判としての参加もふくめ）ときは、規定第9条によって「申し出、協会と協議、判断する」ことになるでしょう。

しかし、現在はもちろん、将来も、市区町村、公民館、青年団等の小さな地域、単位での競技会は無数にあり、そのすべてに、前述の手続きを経て、出場参加の適否を判断することは不可能に近いでしょう。

そこで、提案ですが、次の補足説明を成文化できませんか。

一、次の競技会は第6条にいう競技会にふくまれない。

1・会員一律の会費を徴収して運営されているクラブサークル等が主催して、その参加者に限って行なう競技会。

二、本会は次の各団体のいずれかが主催もしくは共催、あるいは協賛している競技会を承認する。

1・市区町村　2・市区町村体育協会　3・市区町村バドミントン協会　4・市区町村公民館　5・市区町村青年団および青年会

愚見ですが、ご一考下さい

（新潟県津南町・桑原重行）

大変、マトを射たご質問、ご提案だと思います。

法律や条文等は、なかなか表現、表記の方法がむずかしく、運用に当たっては解釈の基準となる条文が、さらに必要となるのが実際です。

日本協会では、この解釈についての細則を定めてありませんので、責任を持ったご返答ができない段階ですが、編集部が代わって、一応のご説明をいたします。

まず、アマ規定の現実のねらいは、会員が、商業宣伝に利用されたり、利用したりしないように、という点です。そこで第6条「本会の登録競技者は本会が関係もしくは承認していない競技会、あるいは禁止している競技会に参加することができない」

第9条「本会構成員以外の団体からの申し出による競技会に本会の登録競技者を参加させ、もしくは当該競技会の共催、後援、協賛者として加わることができる。ただし、その場合は当該団体とあらかじめ協議する」

という二カ条の解釈が問題になります。

スポーツ界の一般常識としては、新聞社、公共放送（民放ではない）教育関係団体、地方自治体など、いわゆる公共的性格を持つ団体はフリーパスと考えられています。

そこで、この条文でいう「本会以外の団体」は①IBF、日本体協、日本バド協会等が「いけないと判断している競技会」たとえば、かって問題になったガネフォ（新興国スポーツ大会）のようなもの。②商業宣伝のために開く恐れのある競技団、その団体（企業）など――の二つと考えてよいでしょう。

以上の場合について、第6条では個々の会員、第9条では協会という組織が、それぞれ気をつけてほしい、との意味です。

次に、それなら、なぜ具体例や、名前を明記しないのか、ということになりますが、ひとつは「ここにいう競技会とは」「ここにいう団体とは」と書くとキリがないこと、逆に一、二の例をあげると、それにあげられていないものは、かまわないという解釈になる（法律専門家の意見）恐れがあるからです。

しかし、あなたのご提案は貴重なものですから、細則、内規のようなものをつくるさい、参考にするよう、アマチュア委員会に連絡いたします。

どうする検定合格などの用具の性能保証

検定合格のシャトルの中で飛びが悪いものや、使用して二、三カ月もたたないうちに、ラケットのシャトルが曲ってくるもの（高級品で）などがありますが、このような種類の用具に対し、各会社では、どのような取り扱いをしてもらえるものでしょうか。

日本協会の検定会を通ったものは協会に行政指導上の政治的責任、メーカーには販売道徳上の営業責任があるといえます。

そこで、まず一般論ですが、用具の中で規格から外れた製品は、文句なしに取り代えるのが当然で、つぎに、あきらかに材質不良、製作工程上のミスがあった場合も同様です。

もちろん、検定、推奨の製品

読者のひろば



カットは読者の湊しおんさん（東京）寄稿

といっても、実際の話、年間に何十万個と使われるシャトルや、ラケット等を日本協会が一個ずつ検査するのは不可能であり「検定のため出品したものと同一の品質」である（シャトル）ことを条件として、メーカーを信用しているのです。

したがって、数多い用具の中に不良品が絶無とはいえません。しかし、実際の用具の早期破損、性能不良が、メーカーだけの責任であるかどうかは、簡単にいえないこともあります。

つまり荷作りと輸送の状態（乱暴に扱われた場合）それが実際に売られるまでの保管の状態、その期間、買ってからの保管の状態などで、問題がちがってくるからです。

とくにシャトルは湿度、温度の変化に弱いので、買ってすぐ打ってみたとき、すでに飛びがわるいものならともかく、少し時間が立てば、影響を受ける場合があります。また、失礼ないい方ですが、使う人の技量、力によってもちがいます。（最初からカーブして飛んだり、ブレてキリモミ状に飛んだりするのは論外）

ラケットも薄い合板や金属から成り、きゃしゃなものですから、保管がよくないと、狂いを生じます。コートや地面、カベ、木などに当たったり、たたいたりしたときも、その時はなんでもなくとも〝後遺症〟が出ることがあります。

そこで、疑問がある場合はメーカーなり、店なりに、くわしく事情を説明、出来れば現物を見せて下さい。メーカー側に問題がある場合は、見ればわかるそうですし、明らかに使用者の責任ではない場合には、信用の上からも、好意的に取りはからうはずです。

以上、メーカー側と日本協会の話を取りまとめてお伝えしました。

よけいなことかもしれませんが、用具類は決して安いものではありません。シャトルの場合は特に湿気、ラケットの場合も同様に気をつけ、使わない場合はプレスをして、大切に保存しできるだけ長く使えるようにしたいものです。

前回のユ杯シンボルマークの意味は？

第五回ユーバー杯大会のシンボル・マーク（左図）は、どういう意味を持ったデザインなのですか。お教え下さい。

（福島県喜多方市役所内　関口明）

お答えします。この図案は、すべて〝5〟が基本になっております。これは、オリンピックの〝五輪〟マークがヒントになっており、第一に、五つの輪は五つの大陸を現わすこと、大会が第五回であること、もう一つ参加国が五カ国（選手権国の日本と、欧州、アジア、オーストラレーシア＝豪亜、米大陸の各ゾーン代表）であること、などにひっかけたものです。

この図案は「将来ともユ杯のシンボルマークにしていこう」という関係者の考え方があったのですが、そのためには、〝第五回〟に意味がある、という点を除外して考えなければムジュンすることになります。

なお、ご承知のように、次回第六回大会も来年、東京で開かれますが、この大会で、シンボル・マークをどうするかは、まだ決っておりません。

現在出版されているバドミントンの書籍類

時々、読者からの問い合わせがありますので、現在、出版されているバドミントンの書物をリストアップしておきます。

ただし、本によっては絶版になったもの、旧版のままのものもあるかもしれません。外国のものは次号にでも紹介します。

書名	著者名	出版者	定価	備考
ウイニング・バドミントン	兵藤昌彦訳	不味堂書店	600円	
最新バドミントン教室	三須徳次	林書店	680円	
バドミントン上達法	伊藤基記	不味堂書店	600円	体育図書館シリーズ⑪
バドミントン競技	川端昇市	旺文社	170円	旺文社スポーツ・シリーズ
バドミントン入門		ベースボールマガジン社	170円	スポーツ新書㊵
バドミントン	今井先訳	ベースボールマガジン社	180円	スポーツ・ビギニング・シリーズ
図解コーチバドミントン・ゲーム	相馬武美	成美堂	200円	スポーツシリーズ⑭

ヨーコのひとりごと



この間、関東学生選手権の試合を見てて、あたし、おもしろいこと思いついたの。

それはネ、プレーしている選手達のどこかに、そっとかくしマイクをつけておいたらっていうこと。

例えばネ、法大の草島・田所のペア、どうみたってカッコよく、ハンサムでスマートとも思えないでしょう（失礼！気わるくしないでね）。ところがウチの学校の女子部員に意外と人気あるのヨ。原因？……

そこで彼達の試合中、コートサイドで研究してみたの。

そしたら彼達、実に愉快なのよネ。試合中にまるで漫才やっているみたい。

それがまたワザとらしくなくってタイミングがよくって、パンチがきいてるのネ、そんなところがウケているみたい。

それはネ、ある面からみればコート・マナーが悪いとか、ふざけてる、なんていわれるかも知れないけど……。

でも、このコトバが意外とフェイントの役目をしていることも事実ヨ。

アタシがおもしろいナと思ったのはソコなのヨ。その試合中でも二、三あったわ。

たとえば、サービスの体勢にはいったとき、パートナーがサーバーに向って、そっとささやくの「ロング……ロング……」これがまた実にタイミングがいいんだなアー。

相手にさとられないようにいっているように見せかけて、実は相手に聞かせているの、サービスはもちろんショートよ！相手はてっきりロングがくると思っていたのネ、まんまとひっかかったわ。

フェイントとは球さばき、ラケットさばきだけでない……っていうことを立証したわけ。

アメリカン・フットボールや、ラグビーでも、マジック・プレーとか、トリック・プレーというのがあるけれど、これに類するものかしら。

そうしているうちに、もっと気がついたの。

試合中の選手って意外と何かぶつぶついいながらやっているのネ、アタシいままで選手っていうのはそれこそ真剣に黙々とプレーしているのだとばかり思ってたの。

自分を叱咤し励ますつぶやきみずからにいいきかせ確認することば。相手を威かくすることば。自分のミスをみずからなぐさめることば、相手の戦意をそぐためのことば……、それが、またその選手の人柄を浮き彫りにしているみたい。興味あったわあ。

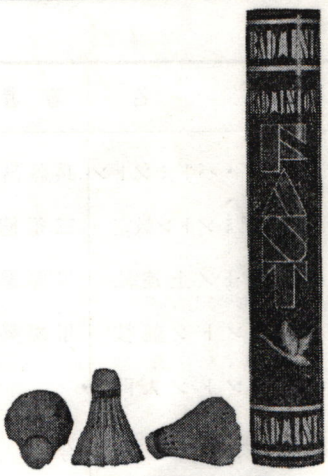
これ、心理学的に究明したらおもしろいんじゃないかしら。

『窮地に追い込まれた人間像』なんて。

残念ながら、アタシは専攻がちがうけど、きっと研究に値するものと思うわ。卒論なんかにもってこいよ。（ヨーコ・柏木）

水鳥 検定合格球

ファストゴールド
ファストシルバー



ファスト印シャトルコック製造発売元 有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28
電話 0236（22）3994(代) 3280・0545

ミコちゃんのなんとか、などとやせる本が飛ぶような売れゆき。これも〝時代〟かもしれないが、やせたい思いは男性も同じこと。あまり無理すると、あの世行きになる、というお話がある。

米国の元重量あげヘビー級選手のアーサー・ウイリアム・ボスマンさん(四二)が、このほど、フロリダ州セントピータースバーグの自宅で、死んでいるのを発見された。

現役時代は〝減量〟がいわば商売のボスマンさんだったが、引退して社会人となってからは、体重が90キロからなかなかへらない。ところが、医者から減量するようにいわれたので、食事は一切やめ、毎日ヒマワリのタネのようなものを少し食べるだけとなった。

おかげで減量には成功したが、栄養失調で衰弱、シャワーをあびているとき失神して倒れ、そのまま死亡したらしい。

減量のやりすぎで天国へ

発見されたときは推定40キロ。文字どおり、ガイ骨そのものだったという。皆さんも気をつけて、といいたいが、バドミントン・プレーヤーにそんな太った人はいないはずですね

ボウリングのブームはとどまるところを知らず、七月末には、初の全国高校選手権(インターハイ)まで開かれた。

こうした厚い底辺?に支えられてプロ・ボウリング界はパーフェクトゲームのラッシュ。全日本サーキットの浦和大会では6個、横浜大会では8個のパーフェクトがとび出したが、この好スコアは「レーンのおかげ」という声がある。

つまり「レーンに塗るオイルを中央に厚く両サイドに薄くし、その境目にボールをうまくころがすと、オイルのレールに乗り、ストライク・ポケットに誘導されていく」とか。

ボウリング場でも、好スコアを出やすくするのが、サービスと心得てレーン・コンディションづくりをきそっているので、アマでも、こういうところへ行けばトクするわけだ。

パーフェクトはつくられる?

東京の民放テレビでは、毎日どこかの局が女子プロのゲームを放映しているほどだが、こんなゲームでもオイルの手かげんがあるのかナ。

八百長とはいえないにしても、では、本当の実力はいったいどうなんだろうか。皆さんはどう考える。

コーナー

ママさんスポーツのトップを行くバレー。その第二回全国大会が先日東京で開かれた。

大会といっても、過度の競争から来るへいがいを防ぐため、同一チーム、同一選手は二年連続しては全国代表になれない。

〝生後二カ月〟あずけてプレー

四チーム出るが、いづれも平等の優勝。ただし、佐藤首相寄贈の総理大臣杯は一個なので、四チームのうち平均年令が一番高いチームに与えるなど、大した気のくばりよう(女はうるさいからね)

夏休みとあって、ママさん連、夫婦、子供ずれでの修学旅行ムードがいっぱい。ママしっかり!のほほえましい風景もみられたが、なかに、生後二、三カ月の赤ん坊を臨時保育所(大学生が世話)にあずけ、プレーするママさんあり「大丈夫かね」「女は強い」と批評さまざま。

また、年令は25歳以上だが、もと全日本級大会の経験者は、35歳以上でないと出場できない、などいろいろ制限つきで友好第一、勝負第二がモットー。

さらに、予選の成績でグループを四つに分け、トーナメントで勝者が選手強化も、ここまで過熱してはいけない、という見本が水泳界にあった。

日本水泳連盟はこのほど静岡水泳協会から「標準記録をいつわった静岡SC、フリッパーSCを、むこう一年間、日本水連総括下の競技会に出場させない」との報告を受け、これを了承した。

この不祥事というのは——さる五月初め、東京で全日本室内選手権が行なわれた。これに参加するには種目によって決められた〝標準記録〟以上のものでなければいけない。

タイム不正で出場停止処分

ところが、前記両クラブから申し込んだ選手の多くのタイムが標準記録そのものだったので、おかしいと思って、調べてみると、両クラブは「できるだけ多くの選手を参加させたい」と、タイムをごまかして申し込んだらしい。

そこで日本水連が静岡協会に調査と処分を指示していた。

東京五輪後、盛んになったものはママさんバレー、サッカー熱、そしてスイミング・クラブといわれる。水泳クラブは少年少女を中心に〝国民皆泳〟の役に立っているのに……

小島はなぜハルトノに勝てない

＝ト杯の栄光への道をさぐる＝

短期連載（中）

小島一平×内藤安雄対談

必要な〝さきを読む〟力

内藤　前号では、フェイントのかけ方の、両者対照的な点について、そのちがいを述べましたね。

今回は、この続きから話をすすめます。

もう一つの問題、同じくフェイントに関係するのですが、ハルトノが小島をサイドラインに押し込める、そのとき小島は、フォアでハルトノのコートに、サイドラインに平行にシャトルを返す。このため、次のタマで小島がバックを完全に抜かれてしまうことがある。

サイドに押し込められたときは、サイドラインにストレートで返球してはならない。クロスコートで返すべきだし、それもクリヤーで、充分、態勢を整える「時」をかせぐべきです。なぜなら、クロスコートでリターンすると、次のタマの処理がしやすいからです。

――お説のようなやり方をしていたら、あるいは、展開がちがったかもしれない、ということが……

内藤　ありますね。ストレートで返して、場面を苦しくするというようなことが何回か続いて、それが失点に結びついている、ということなので、あれはミス・ショットだ、といってもいいのではないか。

小島がクロスで返球していたならば、なんとか逃れる道があったのではないか、と思う。

小島君ほどのプレーヤーでもエキサイトしてくると、そういう、ごく初歩的なミスを犯してしまうわけでね。

ハルトノには、そういう点のミスが、少なかった。そういうほんのわずかなミスが、あのゲームの結果につながったのではないか、という感じをぬぐい去ることができません。

――そのフェイントのかけ方が、数多くの経験から生じたものか、それともハルトノの天性なのか。

小島　ハルトノが持って生れたものもあると思う。運動神経というのか……

内藤　一流になるには、先号で〝3S〟のマスターが必要といいましたが、それ以上のカベを破るには、アンティシペーション（予見力）＝先き読む）とか、フェイント・モーションとか、勝機への転換とか、いうことを心掛けなければならない。

そのカベを破る三つの要件というのは、もちろん、ふだんの練習によって、場面を再現しながら、自分で意識して処理することによって、体得できるものだ。

しかし、これは、ふだんの訓練のさいの、頭の働かせ方がいかに大事かということにもなるが、反面、ぼくの考えでは、訓練で体得するより、むしろ動物的なカンというか、天性というものが、かなり大きな部分を占めていると思う。その意味で小島君のことばもわかる。

レシーブがよくなれば

小島　確かに一流のプレーヤーを見ていると、そう思える。考えられないようなショットをするとか……。

――あと一歩まで追いつめながら、戦法に間違いはなかったのだろうか。

小島　そういわれると、よくわからない。ただ、自分のプレーのやりかたは、この数年でかなり変わってきていることは事実ですね。

最初のころは、自分が攻撃一本やりで、レシーブに自信がないから、相手のスマッシュが、こわくてしょうがなかったよ

今回の要点

この対談は、小島選手とハルトノの違い、その特色等についての解剖ですが、編集部としては、一流プレーヤーになるには、どうしたらいいか、なにが大事か、という一般的な教訓をこの中から皆さんに学びとってほしいと思っています。

今回の要点をまとめてみると

1・一流になるには基本的な3S（前号参照）のほかに、予見力、フェイント、勝機への転換などの能力が必要である。

2・攻守のバランスが必要であり、いい守りの力が攻めのチャンスを生み出す。

3・スピードがバドミントンには必要欠くべからざるものである。しかし、スピードというのは、ただ、タマの速度が早いというような単純なものではない。

4・戦術上の参考――サイドラインに押し込められたときはストレートで返してはいけない。必らずクロスに、それもクリヤーで返す。こうすれば、自分が体勢を立て直す時間的余裕を生み出せる。

うな状態だつた。

しかし、ここ一、二年レシーブの必要性をすごく感じ、その面の強化に力を入れた結果、あまりスマッシュもこわくなくなり、今回のデンマークでの試合でも、見通しが明るくなったようなわけです。

――ハルトノを破るには、確実なレシーブがあれば、可能だということ？

小島　ええ、それとですね、ハルトノは他の外国選手とやって一ゲームも取られていないし10本以上やった試合も見たことがない。ところが、ぼくはいつも接戦する。

ということで、自分は足が動かないときは、まるきりダメだが、調子が上って、ある程度、ねばるのではなく、自分の攻撃がノータッチなんかで決まると他の選手はもちろん、お客さんまで、びっくりするんです。

そういうとき、自分でこれだけできるのは、これはスピードがあるんじゃないか、と思うわけですよ。

ですから、自分にとって、スピードは欠かせないわけです。

ハルトノに攻守のバランス

自分がスピードでなく、完全にねばってやろうと思ったりしたら、絶対に勝てませんよ。

これから彼に勝つには、じっくり走り込んで、彼のスピードに対応していく動きを身につければ、と思う。

――ハルトノと他の選手との相違点については

小島　結局、気を抜いたタマ凡ミスがないという点をすごく感じますね。

内藤　ぼくはハルトノについて偉大なプレーヤーだな、と思うのは、結局攻守にバランスがあるという点だな。

小島　そうですね。

内藤　どんなプレーヤーにもたいがい、得手、不得手があるわけです。ところが、彼の場合は攻守にバランスがあるということが一つと、どのショットもきわめて正確にコントロールされているということ、それから精神的な面で、どんなに追い込まれても、ピンチになったという感情を、絶対、表わさない、プレーにも全然、影響を示さない、そういう点ですね。

ですから、彼には基本的なものが、がっちりぶち込まれている。それにプラス・アルファ、精神的なずぶとさが加わわっているということが、他の選手と比べて抜きんでていると感じさせる点なんですがね。

ぼくね。いま小島君がハルトノ攻略について意見を述べましたね、スピードにはスピードという意見は、まったく、その通りだと思うんです。

ただ、いわゆる早く走ることだけがスピードではなく、またスピードあるタマを相手に打ち返すことがスピードということじゃないと思うんです。

スピードとはなにか

――それは、どういうことですか。

内藤　つまり、ハルトノに対して、もし、スピードが通用するとするならば、そういう、ごく基本的なスピードではない。スマッシュひとつ打つとしても大きくワインドアップして、フォローするといったスマッシュでは通用しないということなんです。

スマッシュというのは、相手コートに最も早くタマを送り込む技術ですね。

最も早く送るんであれば、この大きなワインドアップというのは必要ないわけで、小さなフォームで相手コートに送ればいいのです。

小島が他のプレーヤーと違ってスマッシュでもハルトノと互角に戦えることは、小島のスマッシュのフォーム自体に、かなりの特長があるからだと思います。

（続く）

（編集部注）　スポーツでスピードという場合には、いろんな意味がある。

ひとつは、打球そのものの速度、走ったり動いたりする速度自体が速いことで、これが最も一般的に使われるスピードのことである。

ほかに、いわゆるピッチやテンポの早さも、スピードというものに関係する。

卓球で中国が日本を苦しめ、世界を制したのは、前陣速攻といわれる戦法をあみ出したから。これは台にぴったりついて、ほとんどバックスイングなしで打つ法で、タマを捕えるタイミングが早い。それだけ相手に早く返球できる。この時間の差が勝利へつながっている。



日本協会競技力向上委員長　伊藤基記

諸君を強くするのは諸君自身だ

椎の大木も一粒のどんぐりから

≪叱られることに感謝せよ≫

最近、スポーツ界に限らず、「叱るとすぐ逃げていってしまうので、うっかりいえない」という話を聞く。

スポーツ界の中でも、苦しいこと、つらいことをきらう傾向が強く、大学などでは、いわゆる体育会の部は敬遠し、同好会で楽しむ人が多くなっている。

しごきは論外だが、踏まれ、たたかれ、叱られないで一人前になった例は、世の中で一つもない。

× × ×

私はこの種の意見を、過去においても、何回かバドミントン関係の紙上に載せた。いや私などは末端のまた末端であって、多くのスポーツ界のみならず、各界の先生達が、それぞれの範囲において若い人達を激励する論旨としてこれを用いてきた。

そのいわば使い古された言葉を、ここで、またまた敢えてとりあげたのは、私なりに理由のあることである。

先祖代々、何万回と言い返えされているうちに、この「自から強くなれ」という原理的な言葉は、古くなったからといって、くたびれて役にたたなくなり、朽ちはてて意味のないものになったというものではなく、回を重ね、人を越えることにますます磨きがかかって内容も充実してきたものと私は考えている。

教育の原理に「自己発展の原理」というのがある。むずかしく考える必要はない。「自分で成長する」のが人間の本来の姿だということである。

知識とか、技術とか、体力というものは、コップの中に水をそそぐように、被指導者の身体や頭の中に、指導者がつぎこんでやることができるものがない。

本人自体の細胞分裂しか頼るところはない。亭々と空にそびえている椎の大木も、もとは一個の小さなどんぐりの実であったはずである。

突然にパット大木が出現する道理がない。芽を出し、根をおろし、幹ができ、枝葉を出して、一年一年と年輪をかさねて、大木となっていく。

全くあたり前のことだが、この当り前の道理が、わかっているようで、なかなか本当に身にしみてわからないところに、この世の中のむづかしいところがある。

バドミントンの世界にも実は立派な指導者が沢山いらっしゃる。が、その指導者のエキスをもらって、これを自分の細胞分裂の推進剤に転用する気持が、教えられるもの、習うものの心の中にない場合がある。

よい指導者が、よい選手を育てることは事実だが、よい選手が指導に応えて、みずから頑張るという気持にならなければ、その事実は生れてこない。

ああ、この人は燃えているな。裂しい細胞分裂をしているな、というのはわかる。それは叱られるときの態度に一番よく現われる。

未熟のものが総てうまくいくはずがない。熱心な指導者は必ら叱る。叱ることもしない（叱るべきときに）指導者は、名は指導者でも、本当の指導者ではないと私は考えている。

従って叱られたときは、あ、この人は本当の指導者だな、しっかりきいて、しっかり考えなければと思い、一時的にはくやしくても、静かに考えたときに、自分は叱られるべくして叱られたのだ……という気持ちになって、なにくそと頑張る人なら大丈夫である。

いうべきこと、尋ねるべきことまでいうなというのではない。

叱られたときに、ぐったりと悲観的になったり、また逆に反抗に走るもので成功したためしはないからである。

立派な素質に恵まれた選手諸君がぞくぞくと出てきているのが現状で、うれしいと思っている一人であるが、その選手諸君の中から、何人の人が、指導者に叱られ、自分自身を叱ることに耐えて、日本の、いや世界のトップに登ってくるであろうか。私は今それを楽しみに思っている。

だれかが強くしてくれるはずだ。どこかでよくしてくれるだろう、などと考えているものに、上達や、栄冠の女神は微笑んではくれない。

勝利という栄冠が欲しかったら、みずから努力と研究の継続という代価を支払わなければならない。

代価を払わないで、いただこうというのを、盗人根性という。この根生が残る限り、永遠に上達も優勝もない。そしてこの代価はだれも払ってはくれない。

自分で払うのが、努力という代価である。辛抱、という貯金をつづけるのでなければ、力と技の通帳はふえてくれない。

諸君のフット・ワーク、諸君のスイング、流れる汗はそのまま、流れ去らないで溜っていく。そうして、それは永久に腐敗しない。

敢えて、この一文を若いこれからという選手諸君に贈る。私の気持がわかっていただけるだろうか。

もう一度いう。

諸君を強くするものは、諸君自身である。（熊本女大教授）

中高校編

時間、スペースを効率的に

…ぼんやりが一番いけない…

コートが混んでも頭を使おう

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

コートもせまい上に、人数も多い——何もしないで手持ちぶさたでいる。

このような練習風景を見かけることがしばしばある。

練習会場に恵まれ、しかも練習時間も相当ある学校では、猛練習の末、何回かの休憩を必要とするのは当然である。

だが、実際には中学校などでは部員数が非常に多く、コート数が断然少ない。

しかも、体育館が毎日使用できないため、一人一日のシャトルを打つ時間が、きわめて少ないのが実状ではなかろうか。

とすれば、練習内容の充実、より効果的な練習が必要となる。すなわち、「単位時間の充実」である。

「コートが少ないし、人数も多いから仕方がない」と、大方はあきらめているようである。

確かに無理もないことであるが、それではあまりにも消極的すぎると思われる。

ふんいきも当然ながら、イモの子を風呂で洗っているような感じで、指導者の声も聞き取れぬほど、ざつぜんとしている。

コートが少なく、せまければせまいなりに、おのおのにマッチした練習があるはずだし、また行なわなければならない。

短時間しかシャトルを打つことが出来なければ、なおさらのこと、せっかく順番が来た時には、縦横無尽（じゅうおうむじん）に暴れなければ、なんのために長時間自分の順番を待ったのか、わからない。

待ち時間が長ければ長いだけコート内での時間を、有効、かつ満足に過ごしたいものである。

なにもシャトルの使用だけが練習ではない。むしろ、コート外での練習の方が必要であり、大切である。

コート内で充分、自分の力量を発揮しようと思えば、コート外で、それを支えるにふさわしい鍛練が必要である。

人数が多数であろうとも、また、せまい場所であろうとも、なにもしないでいることが一番無駄であり、もったいないことである。

今日、この時間は、二度と帰っては来ないものである。

よりよく充実するには「秒単位で動け」と選手達にいいたい。これはあくまでも単位時間の充実を意図してのことである。ある選手がゲームを行っていると仮定する。

審判をするものは、単にカウントを数えるだけでなく、鉄アレーなり、ダンベルを利腕の方に持ち、上下運動なり、屈伸運動をやりながら審判をする。

あるものは下半身を鍛えるために、背中へ一人を背負い、屈伸運動をやりながら審判をする。

また、あるものは、ナワとびをやりながら——腕立伏せをやりながら……——ジョッギングをやりながら——うさぎとびをやりながら——腹筋運動をやりながら……

というぐあいに、各々に応じたことを行ないながら、そして、目はあくまでもコート内の選手の動きに集中する。

無駄な休憩や、無為無策の時間、つまり、時間の浪費は絶対に許されるべきでないと思う。

休憩をするにしても、コート数の少い所では、いっせいに休むのではなく、コートをあけない、遊ばせない、時差休憩を、考えるべきであろう。また、その休憩も、ごく短時間に限った方がよい。

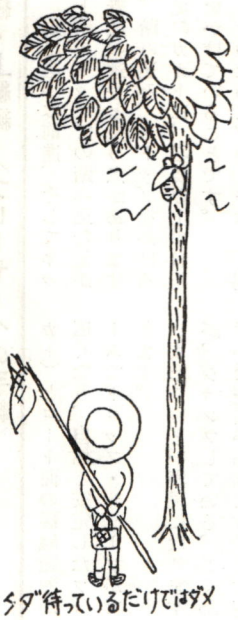
いざ、試合にのぞめば、目、神経、身体は瞬時も休めないし休憩時間にしても皆無に近いような時もある。日ごろからなれる意味からも、このような練習は必要ではなかろうか。

コートにはいらなくとも、いろいろとやらねばならぬことは山積しているはずである。

各自、なにをなすべきか、どこを特に強化すべきか？よく考えて、時間いっぱい、無駄のない練習をすることにこそ、よりよき前進と向上があろう。

要は、体育館にはいったと同時に、そこは自己練磨の道場であることをよく自覚し、目、神経、身体、三者一体となってかたときも分離することなく、力いっぱい頑張ることである。

（東大阪短大監督）



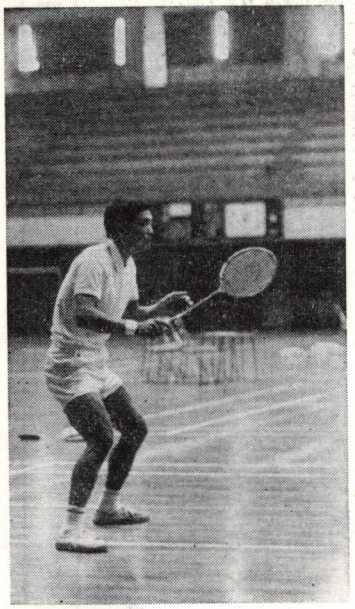
続・上級編〈プレーヤーへの手紙〉

離距（7）湯上り後の体操でも解決

柔軟性の問題（続）

元日本教職員連盟常任理事　三須徳次

中大・鷲尾選手の場合



鷲尾選手は前進、そしてネット前ストップでの踏み込む足が普通の選手と違う点があります。踏み込み、ストップをかける足のカカトに、必要以上の負担をかけていることです。

そのためにブレーキはよく利きますが、利きすぎてバランスをくずし、鋭く落ち込むドロップを捕りそこねてしまうケースがあります。

ドロップ・レシーブだけではありませんが、強い選手になればなるほど、大切な試合で、一本の失敗が命取りになりますから、より確実なレシーブが大切です。

鷲尾選手の場合は、地面に積くカカトの面積を、もう少し広くすることです。ヒザを現在よりもう少し曲げ、上体を起こして捕球する。そうすれば足（カカト）とコート面の接触範囲が広くなり、自然と安定したフォームでドロップ・レシーブができます。

まわりくどい表現になりますが、ジャンプしている、ごくわずかな空間がありますので。着地する、そして前進という場合には、このごくわずかの空間が実は前進速度を阻止していることになります。

このため、ネット前に出るタイミングに狂いが生じ、無理な体勢になる、ともいえます。

そこで、ジャンプしたときに打つスマッシュ、ドロップ、ドリブン・クリアー、それにハイ・クリアーを加える戦法を考えていくと、プレーに幅が出てきます。シャトルを遠く高く飛ばすことによって、プラス（ジャンプ）マイナス（スタートの遅れ）をゼロにできます。

鷲尾選手は「自分には柔軟性がない」と嘆いていますが、同じ悩みを持つ方は、これから先をよく読んで下さい。注意してトレーニングさえすれば解決します。

湯上り後、少し休息し〝伏臥上体そらし〟〝前後屈〟〝側屈〟などの柔軟体操は一人で出来ますから、毎日、実行すると効果があります。

〝体側屈〟は、次の点に留意して練習して下さい。アゴを引き首を横に曲げる。下になった耳は肩の上、もう一方の上にある耳の上に曲げた腕が来るようにすることです。

もう一つ、だれにでも、どこのクラブにもあてはまる問題点があります。それは練習日の準備体操、終了体操（私は終了または完了体操と呼んでいる）が同じ順序で行なわれていることです。

その結果、つい惰性で、身体の動作をやってしまっておりますので、体操本来の目的を達していないことです。ふだん運動をしている人達だけなら、体操の順序を変えたり、新しい体操を、随意に試みるよう心掛ければ身体の堅さは知らず知らずのうちにとれてしまいます。

ゲームでのペースについては皆さんも対戦相手によって、いろいろと経験ずみと思います。鷲尾選手は手首の強さを生かして、ドリブン・クリアーの雨を降らし、相手を少しでも後方に押えつけたと見れば、短いドロップでネットに引きつけ、ドロップ・レシーブで、もし相手の身体が泳ぎ、浅いフライトでも打ち上げたなら、スマッシュで決めていく速攻のタイプです。

速攻のリズムが乱れだすと、前述したように次のペースを立て直すのに時間がかかり、案外〝ポカ〟をやってしまう試合があります。

ドリブン・クリアーで押しまくれる相手には、または相手が慣れない一ゲーム目のうちならば、優位に試合を運べますが、相手が慣れてきたり、長身者であったり、特に動きの速いプレーヤー相手だと、相手を前後にゆさぶる前に、自分自身が左右に振られ「なにをどうすべきか」と迷ってしまい、ずるずると平凡な試合をしてしまう精神的なもろさがあります。

皆さんは、こういうとき、どうしたらいいと思いますか。性格的な面は一朝一夕では変らないものですから、ペースの崩れを少しでも防ぐには、むしろ技術的作戦を主体に考えて、左右サイドでのレシーブ方法や、相手によってハイ・クリアーとドリブン・クリアーを混用してみる技術を体得してほしいと願っております。

次回は塩崎睦子選手の予定。

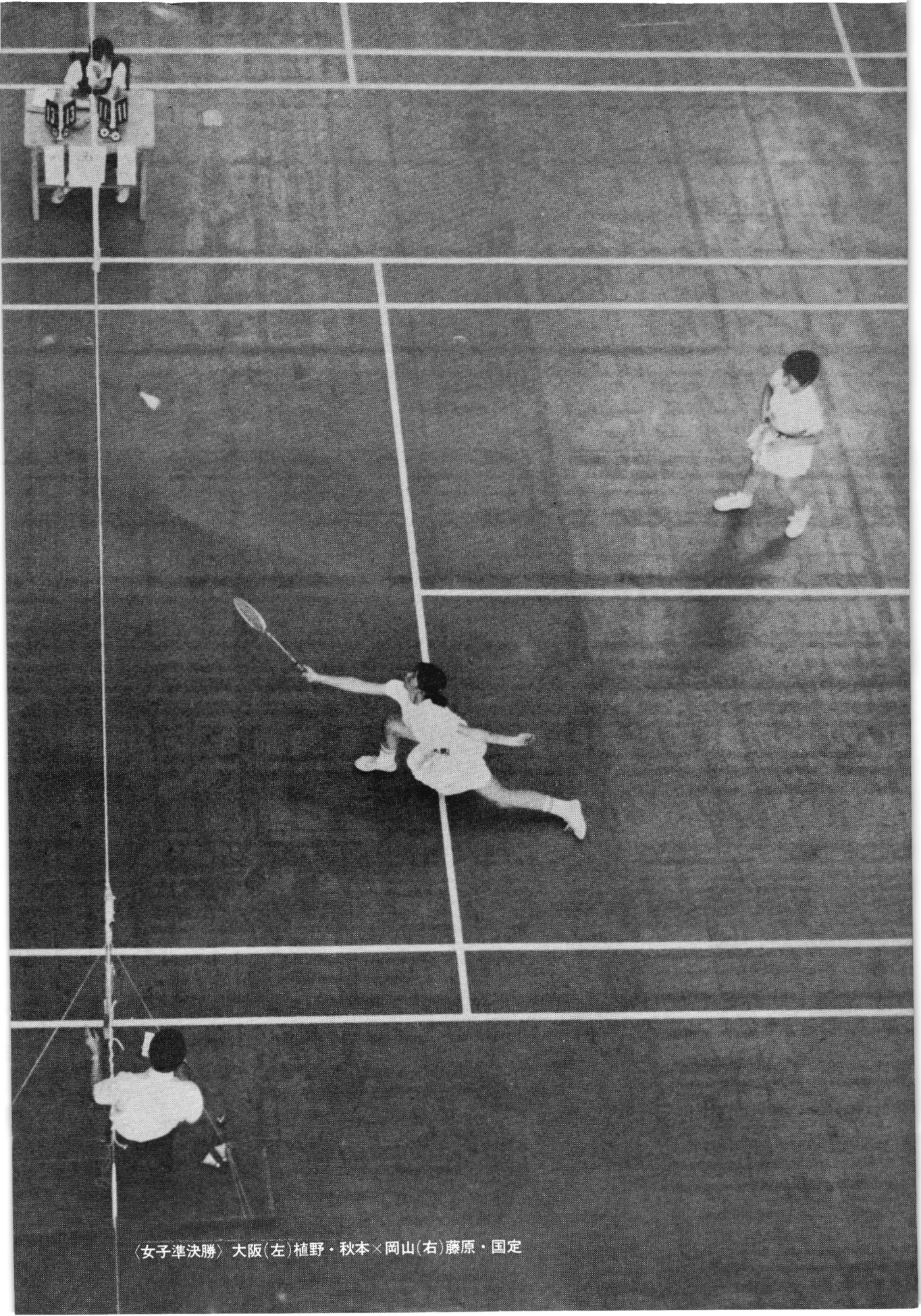
（中央大学講師）

青春を力いっぱい生きよう

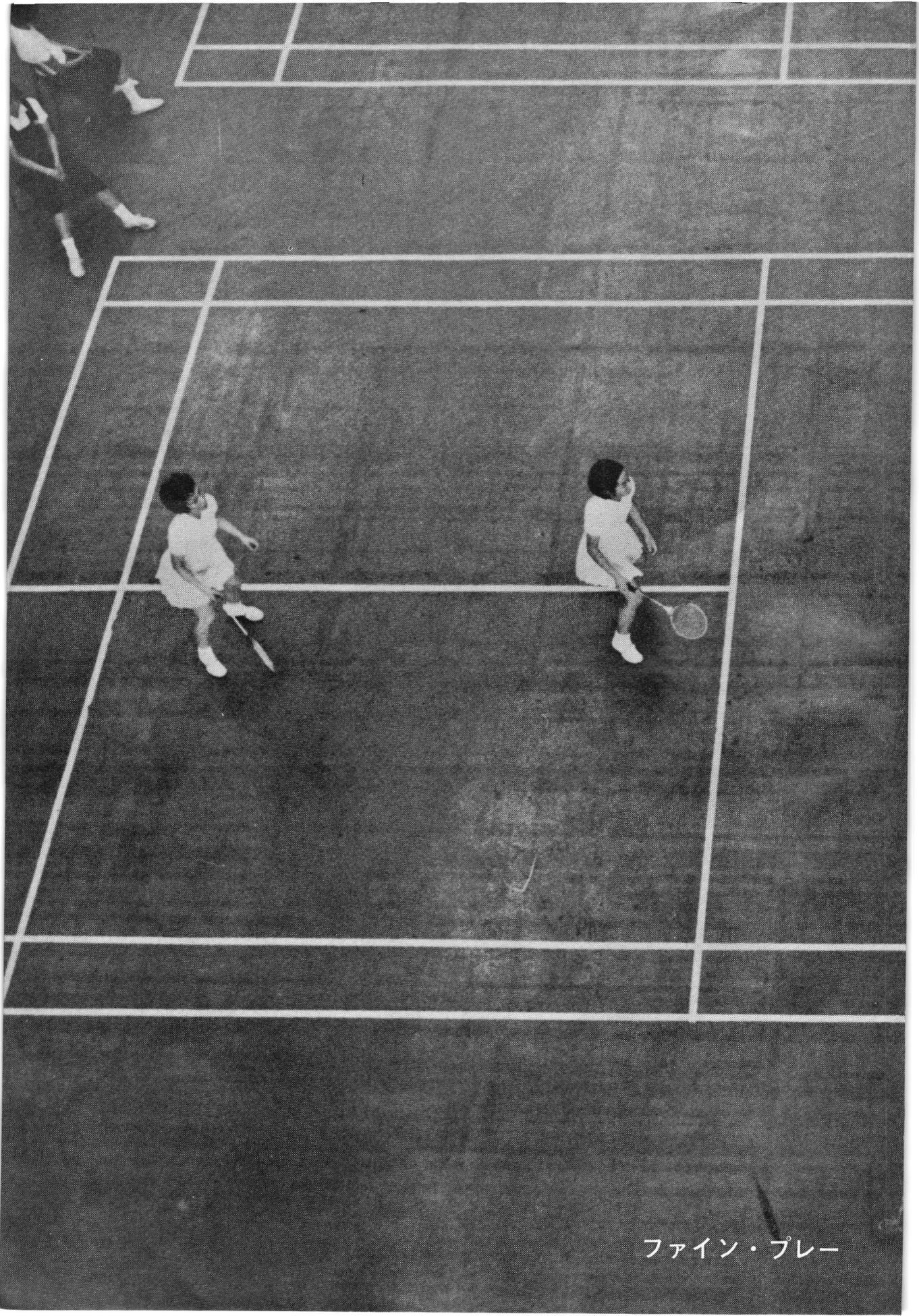
〈第一回全国中学生大会〉から



女子団体に優勝がっちりトロフィをかかえる山下美恵子選手
（大阪・花乃井中三年）



〈女子準決勝〉 大阪(左)植野・秋本×岡山(右)藤原・国定



ファイン・プレー





余裕たっぷりの大阪チーム

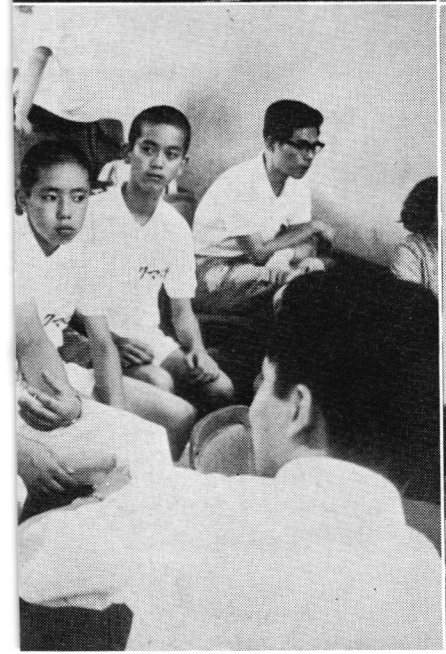
ドとコートと



のチームか不明なのが残念



やったぜ！　滋賀チーム





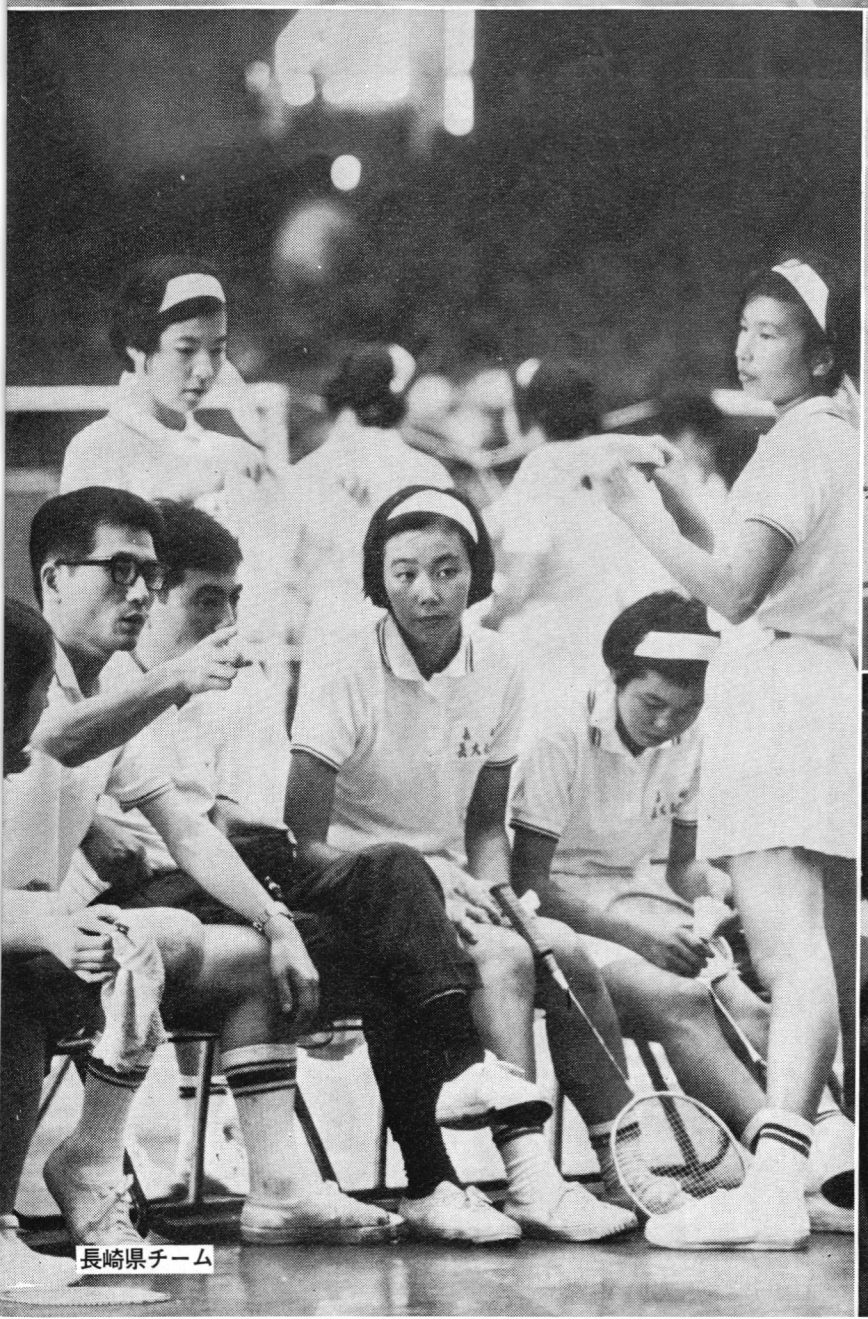
はるばる北は北海道チーム



埼玉県チーム



神奈川チームのスタン



長崎県チーム



応援点描・スタ

うしろ姿もすっかりグラマー



熊本は観戦のかたわら、勉強？



入場行進の“カシラーミギ”にもいろいろなスタイル

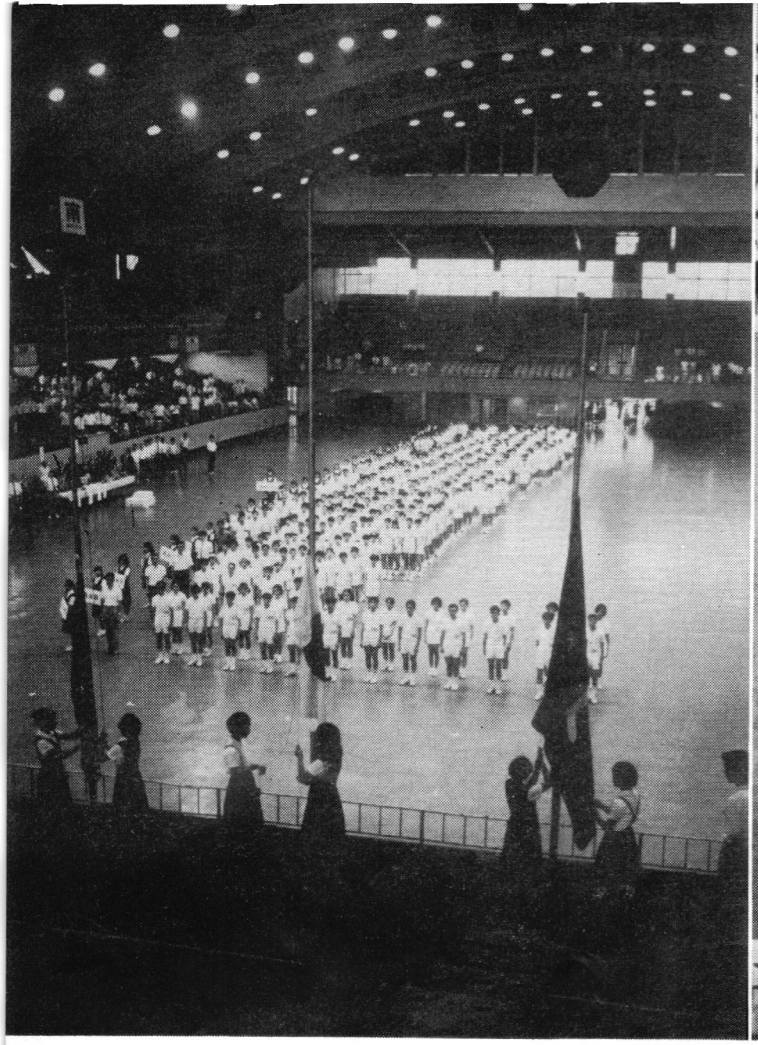
熱戦の前

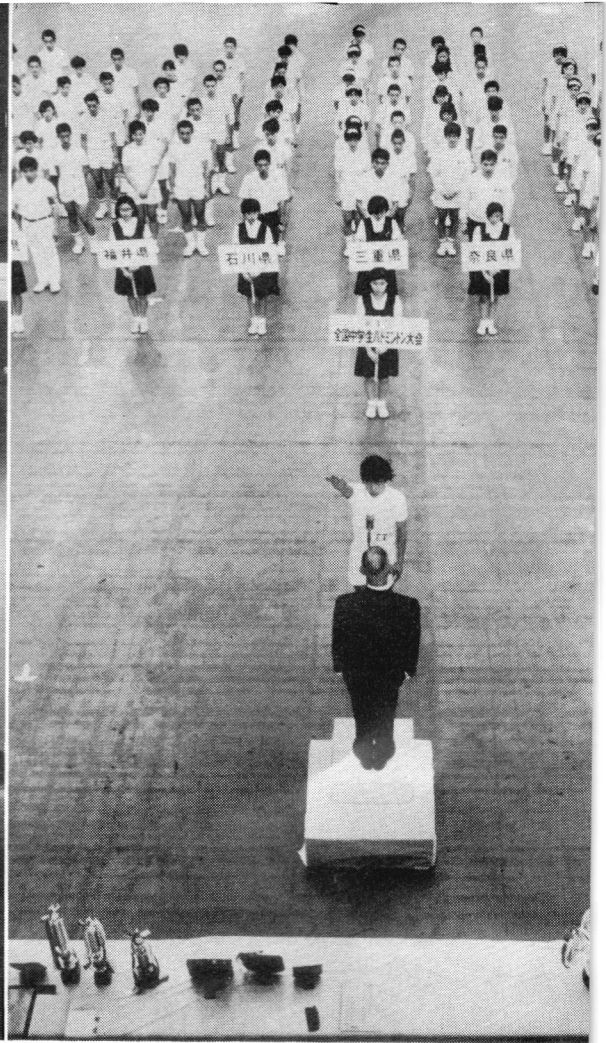
開会式から



り場は初日から人気さっとう







厳粛に国旗が掲揚される▲▲東京代表の選手宣誓。受けるは本田日本協会会長

式典の前、集合場で注意を受ける▼▼二階スタンド入り口の「バドミントン男







男子団体に優勝大杯を胸にした滋賀県代表

私達のクラブ

合同練習は春季だけ

／河崎ラケット工業の巻／

■目下、女子部員を募集中■

ざっと、チームの歴史からご紹介します。

クラブができたのは昭和三十六年。まず、東京都の実業団八部に加盟しました。現在は電々東京、北辰電気、沖電気等と東京リーグにおり、かなり威張れるチームになりましたが、むかしはメンバーもバラバラ、でした。

それは、三年目の三十八年、全日本実業団選手権へ初参加したとき、たった五人（河崎、福井、橋本、鬼、堺）だったことからも、おわかりでしょう。

このとき（第13回三条大会）は、二回戦で第一シードのトヨタ自工と対戦、3－1で負けました。翌14回松山大会では、河崎、福井組が30才複で優勝、喜びを分け合いました。

以後、部員も少しずつふえ、部の力も向上しました。

第17回勝山大会。甲府商出身の三上が善戦して、大阪電々、甲府市役所等の強豪を連破し、初めてベスト8入りを果たす。第18回諫早大会。女子団体が初出場。メンバー原則子（高岡女子高）長田民子（同）工藤よう子（敬愛）原田ケイ子（羽後）男子は高岡市役所に敗れてシードを守れず、ベスト8から転落した。

第19回釜石大会。九州産大から松浦が加わり、善戦したが、ふたたび高岡市役所にひねられる。

第20回高松大会。大学出の新人・落合、平井が加わり、高岡市役所と対戦、三度目の正直とやらで、辛勝してベスト4へ進出した。

部としての悩みですか。大げさに考えなければいけないものはありませんね。

部として、まとまったかたちで練習するのは主に春先き、例年、社会人、実業団、都民大会が連続してあるからです。

区内の小学校や区体育館を借りて週一回、大会前には二、三回の割りで練習します。時間は夜の六時半から三時間ぐらいなものですね。

ふだんは出張もあり、セールスや製造関係の仕事と、いろいろ分かれているので、一カ所に集るのは無理。思い思い、区の学校の開放日とか、他の実業団関係の練習などに入れてもらっています。

あ、そのほか、指導のまねごともやりますね。工場の方にはいわゆる愛好会の組織がありますので、練習のときは、軟式庭球出身の人なんかも、いっしょにやることがあります。

現在の部員は十六人、うち女子五人。当面の目標は女子部の強化です。中心に湯木博江、鈴木華子がいますが、まだコマ不足。部員を募集しています。最後に選手の横顔を紹介しておきます。よろしく。

松浦一郎　九州出身の快男子。最近、インハイ3位だった北国生れの美人とのはなしが進行中とのことで、熊本に一人でいるお母さんも安心だろう。

落合孝之　関東学院三春台、関東学院大と名門を歩んだ浜っ子華麗なダブルスを展開するが、スタミナ不足が玉にきず。音楽の知識は広く男にもてる男。

平井克英　上市高校、慶大時代はパッとしなかったが、入社一年目で格段の進歩をとげた。ラケット一本の武者修業の賜だろうインドネシア語が旨いときいている。

川津　晃　入社四年目、最近ダブルスに旨味を増した。アベレージ二〇〇、コーラーはホームサイズ、めし二人前。（高松商高出身、販売課）

日野昭人　九州生まれの江戸育ち。宮川とともに酒量双璧。（都立三商出身、商品課）

宮川秀樹　無類の酒好き。実家が酒屋だが、家で飲むと金を払わされるというぐらい。恵まれた体力は強行スケジュールの実業団にはぴったり。（聖学院高校↓関東学院大学）

堺　栄一　日本が生んだダブルスの名手の一人。実業団ではパートナーに恵まれず、複、優勝を逃がしている。麻布高↓早大現在、早大コーチ



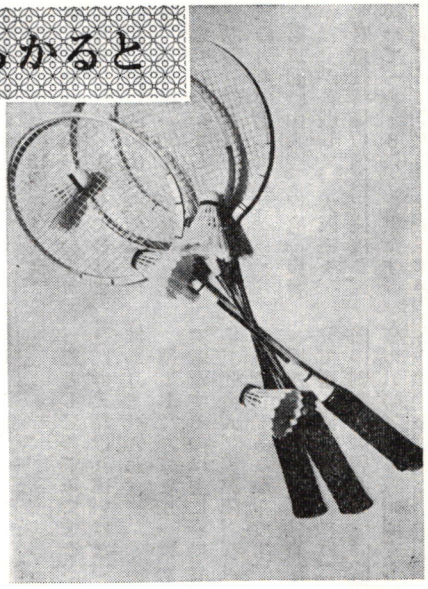
（前列左から）松浦，河崎，原，鈴木，湯木，福井，
（後列左から）落合，平井，川津，宮川，堺．日野　各選手

連載 ❻

バドミントン用具の話題あらかると

〈シャトルの巻〉（下）

日本協会
前用具委員長　松本弘充



(四)大会使用シャトル

現行の大会運営規定では年次大会（日本協会の主催または主管する大会、総合大会、社会人大会、実業団大会、教員大会、学生大会、高校大会、国体競技、世界招待大会）にはその年度の検定合格シャトルを利用することになっています。

用具委員会は検定の結果を競技委員会に連絡し、競技委員会がその年度の大会使用シャトルを決定します。現在は水鳥シャトルが使用されています。

現在、日本のバドミントンは世界のトップレベルになっています。すなわち事実上の世界選手権ともいえる全英選手権大会で女子に三年連続優勝（単、複）ユーバー杯防衛等、男女ともに世界最強国として君臨しているわけですが、これまでにレベルアップしたことは、一面では協会が大会使用シャトルを水鳥シャトルにふみきった英断があります。

また、一面には国際大会には水鳥シャトルが使用され、さらに国際試合が活発になったバドミントン界の状況をみて、採算を度外視して協会に協力した、製造業者の熱意と努力があることを忘れてはならないと思います。しかし水鳥の羽毛は現在すべて輸入品ですので、悩みも多いわけです。

(五)シャトルの製造

ここでは水鳥、陸鳥シャトルについて、ひと通りその工程について述べてみます。

水鳥と陸鳥とは、ほぼその工程は同じですが、違いとしては原毛とコルクくらいです。



図1

まず、羽根の部分とコルク部分の工作とに分けて製造されます。



図2

大変に苦労する製造工程

――まだ不足している水鳥の原毛――

1 羽根部分

①原毛の輸入

水鳥の羽毛といっても、前に書きましたが、鷲鳥（がちょう）の羽根を使っています。その原毛は主として中国産で、台湾からも輸入しています。

品質の上からみますと、気候風土の関係から脂肪が多く、中国産の方がすぐれています。しかしご承知のように中国とは国交が回復していませんので、日中貿易協定によって輸入しているわけで、思うように輸入できない現状です。

しかも輸入のたびに値上りし、その上、品質の上等な原毛ばかりは輸入できません。

陸鳥は鶏（にわとり）の羽根ですが、原毛は国内だけでもまかなえます。しかし現在、羽毛をていねいに抜きとることが少なくなってきていることは悩みです。

②洗　毛

原毛は大変よごれていますから洗済で洗い、白くあげるために漂白します。

③型　ぬき

洗毛の後、プレスで型抜きします。ここで注意していただきたいことは、一本の羽毛からは一本しかとれないということです。（図1）

④羽根の選別

プレスした羽毛は、全部、同型ではありませんので、選別をします。一、二、例をあげてみますと、右に反っているもの、左に反っているもの（曲ってい

る）または片羽等、選別します。（図2）

業者によって、その選別の方法、数はちがいますが、形と色とで選別しますと相等の数になります。

2 コルク部分

①コルク原板輸入

②型削り

コルク原板をサイコロ状に切り、直径二・五～二・八㌢になるように、頭部と周囲を丸く削ります。

③皮かぶせ

コルクにかぶせる皮には、羊皮・兎皮・牛皮・人造合成皮等ありますが、現在一般に使用されているのは人造合成皮です。

④穴開け

次に、コルクに穴をあける作業に入ります。

現定に羽根は十四～十六枚とされていますから、穴は十四～十六あけるわけです。この穴の良否で、シャトルの品質が決まるともいえる重要な工程です。

以上で羽根の準備、コルクの準備ができましたので、次の作業にうつります。

3 植え込み

穴をあけたコルクに、プレスした羽毛を植え込む作業ですが、十四～十六枚の羽毛を勝手に植えこむのでなく、前に述べたように、選別した羽毛を組み合わせ、出来上りの性能を考慮して植え込むわけです。

現在は、植え込みは、ほとんど機械化されていますが、以前は全部、手植えでした。羽根をセットし、自動的に植え込むわけです。

十四～十六枚を同時に植え込む方式と、一本一本植え込む方式とがあるようですが、いずれの方式によっても、一定の角度を羽根にもたせ、完全に穴開けされたコルクにすき間なく、しかも、羽根の先端がコルクの台から六・四～七・〇㌢の高さになるよう植え込まれるのです。

したがって、穴開けが不完全であれば、植え込みも不充分となり、植え込み機械が精密でなければ、良質のシャトルは生産されなくなるわけです。

植え込みが終わりますと、一個一個、熟練工の手によって角度、植え込みの度合、羽根の質等が点検、修正されます。

〝機械〟だけではできない

4 糸かがり

強度をつけ、完全にするために、等間隔に糸かがりをします。これは機械化はむづかしく、人力によっています。

5 型固定

次に、糸を固定し、腰を強くするために、塑性物質を塗布し、さらに羽根の拡がりが直径五・四～六・四㌢になるように修正します。

これで一個のシャトルができ上ったわけですが、業者が出荷するまでには重量の調整、試打によって速調の調査、ブレ等の発見、仕上り外見等、いくつかの配慮がなされます。

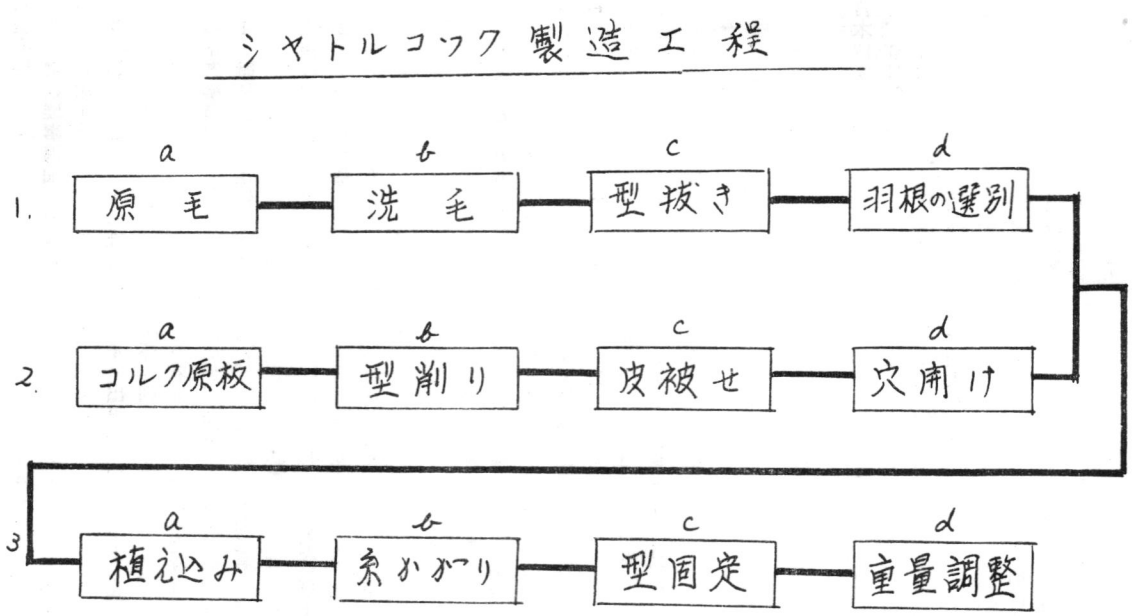
以上、シャトル製作の工程をひとわたり述べたわけですが、これを下図に示してみます。

シャトル一個には多くの人手、熟練した技術、精密な機械細心の注意が払われていることが、これまでの説明によって、わかったことと思います。

このようなことがわかれば、シャトルをていねいに、そして感謝をこめて使用するようにしていただきたいと思います。

十数年前の選手達は、シャトルを大変ていねいに、大切に取り扱いましたし、羽根を植えかえながら、永く使用するように努力もし、工夫もしていました。このようなことは見習いたいものです。

（この項終り）



ユ杯東京開催、正式に決定

日本協会総会 高校合宿は地区ごと

日本協会は七月十八日、東京の神田駿河台の山の上ホテルで理事会と総会を開いた。中国との交流について、別項（中国問題特集）のように、部会を設置することになったほか、ユーパー杯の東京での開催を正式に受けることを決めた。

主な決定事項、報告は次のとおり。

【審議事項】

1・ユ杯の東京開催 第六回世界女子選手権大会の東京開催については、かねてからＩＢＦの要望があり、常務理事会も引き受ける意向に傾いていた。しかし、正式には、総会の決定が必要なので、これに先き立って副会長、理事、監事、総会出席代議員の計百一名に答申を求めた。

これに七十六人が回答を寄せたが、結果は賛成七十一、反対四、白紙一。つまり圧倒的多数が支持していることが明らかとなった。

理事会と総会は、このため、開催には異議がなかったが、反対、あるいは条件付き賛成という一部の代表からは「開催資金を捻出するため、各地方協会に分担金を出させられるのはイヤだ」との意向が表明された。

しかし、多数の府県代表は「地方協会が喜んで協力できる態勢、ムードづくりを条件に、資金の一部分担もやむを得ない」と述べ、負担額は別途、研究することとし、開催を引き受けることが決まった。

一方、日本協会執行部からは早急に国庫と東京都からの補助金を申請すること、準備のための組織をつくること、一応、予算上は地方協会の分担金を、総額百万円と考えていること、などの説明があった。

開催期日はＩＢＦ側は五月下旬から約六日間を希望しているが、これも追って検討される。

2・ビデオコーダー購入 すでに本誌上で紹介しているビデオ・コーダーの購入（一式約五十万円）が決まった。来年一月の総会に補正予算を組んで計上する。

ビデオ・コーダーは、選手強化、普及指導に大いに役立つと思われるが、一本のテープでプレーを撮影しただけでは、大勢の人々が見ることができないので、プリントを多くとり、地方在住の人々も見られるように考えていく必要がある。

3・旅費規定の新設 これまであった旅費支給に関する内規に代え、規定をつくったもの。内規より改善され、急行に代わり、遠隔地は特急、寝台を使用できるようになった。日当は一日千円以内（第七条）宿泊料は一日四千五百円以内（第八条）となっている。

4・競技規則の改正 （略、次のページ参照）

5・高校選手の地区合宿 全国高校選手の選抜合宿は毎年一月、東京で行なわれてきたが、これでは多人数が参加できないこと、一方、各地方からは参加希望が非常に強くなっている。

これを打開するには、地区（北海道、東北、関東などのブロック）ごとに選抜合宿を行うことが望ましい。具体的には、本年八月以降、各ブロックで実施、明年三月には、ブロック代表の男女二人ずつ（ダブルスを組める選手）を東京に集め、全国選抜合宿を行う。将来は、これを全国新人大会の形にしたいという意向。

6・中国との交流 （略、別項特集参照）

7・常務理事追加 伊藤鉱一理事（愛知＝前常務理事）を追加選任した。これで常務理事は十三人。ほかに理事長、副理事長二人。

【報告事項】

1・財務委員長選任 空席となっていた財務委員会の委員長に佐藤芳朗常務理事を決定。

2・シャトル関係 シャトルの品不足、入手難等が各地方協会からいわれているので、流通状態の実際を、アンケート調査する。八月十五日まで。

3・商品名変更等 有限会社ニシムラスポーツのシャトル「バードデラックス」が「エリートデラックス」に「バードトップ」が「エリートトップ」に名称変更、認可。またニシムラスポーツは七月十七日付けで河崎ラケットに合併。

株式会社メトロのカールトンシャトル「カレッジ」が「ナイロンクラブ」に名称変更、認可。

4・出版局「バドミントン界」関係 創刊一年半にくらべ、最近の半年間は大いに収支改善されたが、簡単に赤字は解消できない。広告、販売両面にわって全面的努力が必要である。

これに関連して理事会は理事（常務理事をふくむ）が、全員、年間有料購読することを申し合わせた。

また「バドミントン界」が提唱している〝沖縄援助〟について、川端理事長から各県協会の協力要請があり、了承された。

5・教職員連盟関係 近く「審判法一〇〇問集」を刊行する。「競技規則一〇〇問集」（本誌連載〝ルール一〇〇問〟）同様、協力を願いたい。

日本協会競技委員会（議事録要旨、6月28日）

①日本協会への二重登録について＝大会参加申し込み者の中に、二つの協会にまたがって日本協会の登録番号を持っているものがいる。総務委員会に連絡して、善処してもらう。

②日本協会への分担金納付について＝年次大会に参加する各協会は、規約どおり六月三十日までに分担金の全額または半額を納入しなければならないことになっているので、総務委員会と連絡をとり、分担金未納協会については、年次大会への出場を取り消すこともありうる、との強い措置をとる。

サービスのフォルトに注意

＜競技規定の一部改正＞

IBF「国際バドミントン連盟」の規約改正にともない、日本でも競技規則の一部を改正することになった。

要点は二つあり、一つは英国がヤード・インチ法からメートル法に切り変わったため、コートのライン幅など、数字の表記をメートルで示すさい、端数を切り上げたこと、もう一つは、サービスのフォルト解釈が具体的になった点である。

フォルトについては本年十月一日、数字については明年度から実施する。

最初にフォルトについて述べると

①第14条第1項が次のように変わる。

【現行】 サービスで打たれる瞬間に、シャトルがサーバーのウェストより高かったときや、ラケットの頭のどの部分でも、それを持ったサーバーの手のどの部分よりも高かったとき

【改正】 サービスで（Ⅰ）打たれる瞬間に、シャトルがサーバーのウェストより高かったとき。または（Ⅱ）シャトルが打たれる瞬間に、ラケットの頭部全体が、そのラケットを持っているサーバーの手全体よりも下にあることがはっきりと見分けられるまで、シャフトが下方をさしていなかったとき。

②一般規定第16条のうち「地面」ということばを「コート面」に変える。これは用語をはっきりさせたもの。

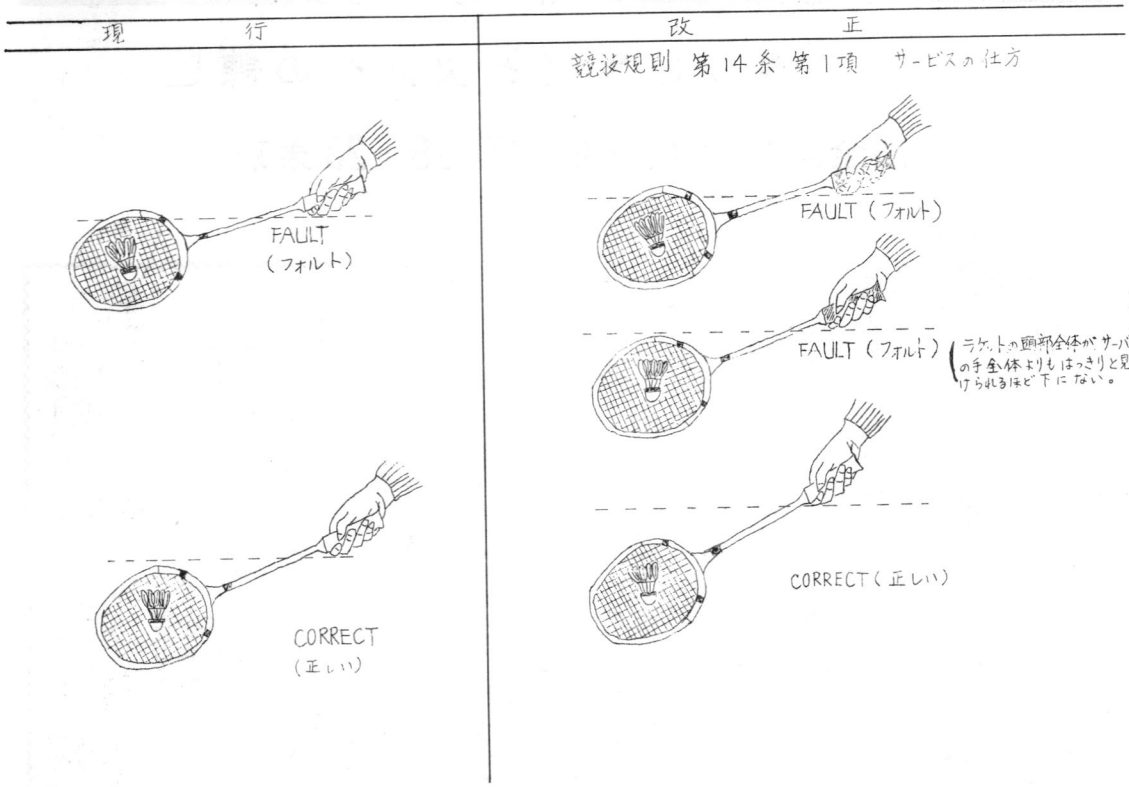
③解説の項の第一項に追加

【現代】 サーバーとレシーバーがそれぞれサービスのための位置をとった後は、サーバーがサービスの継続を破るような効果を持つ、どんな動きや行為をしても、予備的な欺変となる。

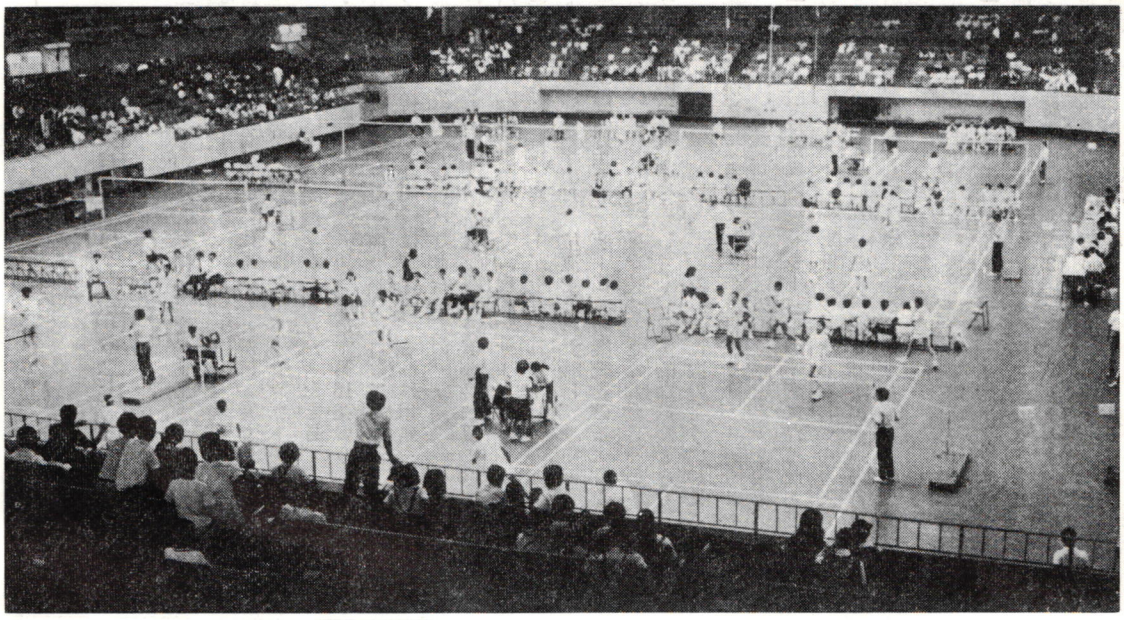
このあとに次のように加える

「例えば、サーバーがサービスのための位置をとった後に、レシーバーの不利になるほど長い間、シャトルを打つのを遅らせると、サーバーは前述の行為をしたことになり罰則を犯したこととなる」。

数字については①コート・ラインの幅を「4㌢メートル」、②ネットの網目を「1・5㌢から2㌢」に③ネットの上縁の白テープを「7・5㌢」に改める。



滋賀県(男子)大阪府(女子)に初栄冠



成功の喜びと反省と次回への課題

第1回全国中学生大会 — 7・26～28 東京

日本のバドミントン競技史上初めての中学生の全国大会が七月二十六日から三日間、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で開かれた。

全国四十七都道府県のうち、三十都道府県から男子二十九（東京二）女子三十一（同）チームが参加、1複2単制の3点先取、団体戦トーナメントで勝敗が争われた。

この結果、男子は滋賀県（南郷中、中主中、粟津中）、女子は大阪府（花乃井中、四条畷学園中）が優勝、それぞれ初代の王者の栄冠を歴史の一ページに刻み込んだ。

初めての催しとあって、いろんな問題点もあったが、競技会そのものは、まず無難な成功を収めた。やってよかった、という喜びとともに、今後のよりよい発展を願って、大会をふり返ってみる。

（おことわり）詳細な記録は次号に収録します。

トーナメントでは、多少のクジ運がつきまとう。かなりの実力を持っていても、不幸にして優勝候補と一回戦で当ったため、消え去るを得ない、という場合もある。

だから、いちがいにはいえないが、結果から見ると、やはりバドミントンの盛んな府県、あるいは高校勢が強いところの代表チームが、ほぼ上位をしめた。ただし、北海道、長崎、滋賀などが、これほどすばらしいとは予想外だったし、地元・東京が案外だった。

府県別に見ると、ふだんから激戦している関西地区の選手は概して勝負強くて、かけひきも知っており、上位クラスの中でも山形、新潟、岡山などは、非常に素朴な試合ぶりだった。

男女別では、女子の方が勝負に対する執着心が強く、技術的にもまとまっている選手が多かった。また、いまは基礎だけだが、将来、のびそうというタイプの大型も多かった。

男子の方が、大まかにいって中学生らしく純真な選手がいた。ただし、プレーは、よくいって荒けずりだった。

【男子】

▼準決勝

滋賀県 2—0 奈良県

小野・平尾（南郷中）	15—6 2 15—8	松岡・吉川（正強中）
西村（南郷中）	15—8 2 15—8	村田（安堵中）

福井県 2—0 富山県

坂口・古沢（光陽中）	18—14 2 17—11	加藤・谷口（氷見北部中）

長谷川（勝山中）2 — 1 高瀬（氷見北部中）

▼決勝
滋賀県 2—1 福井県
小平尾 0 — 5 坂口・西片（光陽中）2
西村 2 — 1 長谷川
広瀬（粟津中）2 — 1 古沢

▼一回戦
香川3—0熊本、宮城2—1岡山、富山2—1東京B、三重3—0群馬、長崎2—1大阪、京都3—0山口、愛知（不戦）山形、福井3—0栃木、北海道2—1兵庫、奈良3—0埼玉、徳島3—0岩手、新潟3—0茨城、東京A2—1鳥取、滋賀3—0岐阜

▼二回戦
香川2—1神奈川、富山2—0宮城、長崎2—1三重、福井2—0京都、北海道2—0愛知、滋賀2—1青森、奈良2—1徳島、新潟2—0東京A

▼三回戦
富山2—0香川、奈良2—0北海道、福井2—0長崎、滋賀2—1新潟

【女子】

▼準決勝
新潟県 2—0 富山県
落田・前田（舟栄中）2 — 1 飛田・白江（出町中）

▼決勝
大阪府 2—0 新潟県
植本（四条畷学園中）2 — 0 藤原・国定（瀬戸中）
瀬野井（花乃井中）2 — 1 原田（山陽女中）
植野 2 — 0 落田

▼決勝
大阪府 2—0 岡山県
池田（舟栄中）2 — 0 向（氷見西部中）

▼一回戦
岡山3—0東京B、香川3—0熊本、神奈川2—1京都、大阪3—1徳島、鳥取2—1三重、兵庫2—1福井、山形3—0千葉、奈良2—1茨城、富山3—0宮城、高知3—0群馬、石川2—1栃木、東京A3—0岩手、北海道2—1長崎、新潟2—1滋賀、埼玉2—1愛知

▼二回戦
岡山3—0岐阜、香川2—0神奈川、大阪2—0鳥取、山形2—1兵庫、富山2—0奈良、高知2—1石川、東京A2—0北海道、新潟2—0埼玉

▼三回戦
大阪2—0山形、岡山2—1香川、富山2—0高知、新潟2—0東京A

瀬野 2 — 0 道端（高千中）

— 私の観戦記 —



湯木博江
（前 全英チャンピオン）

私達が中学のころは、県内でさえ試合は年に一、二回しかなく、早く高校生になりたいと願ったものです。この大会に参加できた生徒の皆さんを、私はとてもうらやましく感じました。

大会が開かれたことは、バドミントン人口がどんどんふえていることを意味し、そこに大会の意義もあったと思います。

体育館にはいって気付いたことは、中学生とは思えないほど立派な体格の選手が多かったことです。なかにはラケットを持つと床につきそうな、さも中学生らしい生徒もいましたが、平均身長なら高校生と変わらぬくらい。とくに女子に大型が目立ちました。

技術的に完成された選手がいないのは当然ですが、このまま伸びてくれれば、と思える人はたくさん目につきました。内容的には、勝負のかけひきということには、あまり考えが及ばぬらしく、タマを打って相手のコートに入れるというだけのようです。

しかし、これ（基本）は大事なことであり、年令と経験によって、その他のことは覚えていくでしょう。

服装で目についたのは、女子がすべてスコートであったことです。中学生だから中には短パンツの生徒もいるのでは、と思っていたのですが…。それればかりか、ワンピースまで着ている子がいました。ワンピース姿は日本ではまだ少く、私などもこれから、というところなのですが、中学生が着用すれば、高校以上にも、あっという間に普及するでしょう。

場内を見ていると、選手よりも付き添いの先生方や父兄、親類の方々の熱の入れようの方が大変です。この年代では周囲の影響が大なのでしょう……。

試合には中学生なりの緊張感があり、最初の試合では、胸がドキドキしてふるえた生徒もたくさんいたようでした。

女子の優勝は予想どおり大阪府。花乃井中の瀬野さんは、やはり中学生にしてはひいでていたようです。男子決勝の滋賀×福井はその時のコンデションでどちらが勝っても、と思われるシーソー・ゲームでした。

しかし、私には、参加すべてのチームの一人一人が「晴れのカップは自分の手に」と誓って戦った、と感じられました。

炭鉱町に芽ぶくバドミントン

北海道のほぼ中央、空知管内上砂川町は〝一町一山〟といわれる三井砂川鉱の炭鉱町。石炭の斜陽化と相次ぐ炭鉱事故で閉山、離山ムードが漂い、暗く沈んでいた。この中で、ささやかな支えになっていたのがバドミントンだった。

上砂川一中人口流出で、ひところ三十学級あったのが、現在は約半分の十四学級という学校だ。女子だけのクラブで総勢六十人。屋内体育館の大部分を、他のクラブに占領され、カベざわの狭いスペースで、文字どおり〝羽根つき〟ごっことして登場したのが十年前だった。

しばらくたって、隣りの上砂川二中にバドミントンを手がけた教諭が転勤してきて、対抗試合を始めるようになり、バドミントン熱が急上昇。なんといっても、手軽にできる利点が普及に拍車をかけた。

逆に生徒の熱に押され、同校の袴田教諭も「正しい指導にはみずからも」とルールブック、ガイドブックを取り寄せ、さらに札幌などで開かれる講習会にも、進んで参加するなど、努力を続けた。

技術の上達は、よい指導者に恵まれることも条件の一つだ。回を重ねる講習会で、先生はユ杯チームの現コーチ、堺栄一氏の指導を受けた。

大会の試合後、堺コーチは、「基本はまずまず。いい勉強になったろう」と選手たちを励ましたが、選手たちは、なによりもまず、自分たちの練習方法が間違っていなかったことに、大きな自信を得ていた。北端の山の中の町にも、バドミントンが大きく芽ぶいている。（北海道新聞東京支社・吉備津政博）

男子長崎県代表の長崎中バドミントン・クラブが参加したかげには、全校あげての協力体制があった。以下は長崎新聞が伝える記事の要約――

同校のメンバーは主将の重森弘志君をはじめ藤沢大輔、山田芳信、藤田広城、原田茂の五君。いずれも三年生。県下では抜群に強い。

「みんなおとなしそうにみえるが、内に秘めた闘志と根生は大したもの。こちらがおどろかされることも、しばしば」と越道忠先生は頼もしそうに語る。

成績もそろってよい。学年でもいつも上位クラスだという。



山田君を除くあとの四人は同じクラスで机を並べており、大の仲よし。山田君を含め学校では〝バドミントン五人組〟で通っている。

だが、同チームには困った問題もあった。それは費用のないことだった。学校側も〝まさか〟の出来事に予算がない。うれしいやら、困ったやら、横山稔校長もすっかり頭を悩ませた。

ところが全国大会出場を知った同校の父兄が「お金のことで子供の夢をつんでしまうのはかわいそう」と自主的に援助を呼びかけた。

この〝援助の輪〟は三学年育成会から一、二学年育成会まで広がっていった。同校の生徒会も立ち上がった。全校生徒に募金を呼びかけ、五人の選手を励ました。一時は参加を取りやめなければならないのでは、という心配も、このような父兄、全校生徒あげての声援で吹き飛んでしまった。（長崎県協会・片平直照氏提供）

全校あげての協力が実を結ぶ



優勝の感激のなかで考えること

男子・滋賀県

監督　西橋義二
コーチ　井入初男

代表チームが編成されたのは六月初めの春季総合大会から。以後、毎土、日曜ごと練習をやってきた。七月は県体予選で中断したが、二十三―二十五日はまとめの強化練習を積んだ。

代表はほとんどが大津市内なので、やりやすいこともあったが、選手を出した各校監督が自校の練習を犠牲にしてまで（ダブルス代表を出した学校は、ダブルスの練習しか行なわないなど）協力してくれたことが、それ以上に大きな力となった。

やはり決勝が一番苦しかったが、福井県とは練習試合を一度経験していたことが幸いした。


西橋監督

勝利の要因は全員の気力が充実、かつ、団結していたこと。強化練習には常に中学のOBや教職員、一般、実業団のプレーヤーたちがすすんで参加、アドバイスしてくれたことも大変プラスとなった。

滋賀県のバドミントンは、けっこう盛んな方だと思う。中学は近畿大会で優勝しているし、レベルも決して低くない。

中学は県内に約80校あるが正式にクラブのある学校は約25。バドミントンを教えられる先生のいる学校を合わせると、50校ぐらいがクラブ設置可能校だ。

各校内におけるスポーツとしてのバドミントンの理解度は、実績や担当の先生の熱意によって、だいぶ差があるようだ。

学業とスポーツの両立という問題に関しては、良い学校が最高の目標だと思わないし、勉学第一が正しい姿だともいいきれない。人生の過程において、なにかひとつのことに打ち込むという経験は貴重なものであると思う。

実を結んだ地元の犠牲的協力

この大会に対する希望は、今後も都道府県対抗でやってほしいことだ。その方が普及にも役立つはずだ。個人戦もできればやってもらえたらと思う。

また、今回の形では各校の負担が大きすぎるので、中体連と共催の形が望ましい。そうすると各県、各校の予算で、便宜が計れるのだが、…。

最後に注文がひとつ。県協会と中体連が密接な区域では、中央（日本協会や実行委）との連絡やニュースが、よく伝わってくるのだが、そうでないところは必らずしもニュースがスムーズに流れず、また、そういう地区が多いように見受けられた。

これは現場をあずかるものにとって悩みのタネで、今後はぜひ、この点を注意し、改めていただけたら、と願っている。

女子・大阪府

監督　渡辺真規子

「やっぱり勝った」――そんな気持ちです。十年も前から全国中学生大会が開かれるのを夢に見、そして「第一回大会は自分のチーム（大阪・花乃井中）を優勝させる」ことを考え続けてきた私なのに、勝利の強い感激に酔えないのは、どうしたわけでしょう。

大会に参加するまでのあわただしさと苦しさ、そして本番であまりにも楽に勝ったわたしたち。勝利の喜びの中に「あっけなさ」がひそんでいたのかもしれません。


渡辺監督

それにしても大会前はたいへんでした。まず、大会要項が大阪に届いたのが、どういうわけか六月にはいってから。「大会は結局、開かれなくなったのでは…」と、半ばあきらめかけていたやさきのことでした。

要項には、申し込み締め切りは六月二十四日と書いてあります。さあ、たいへん、予選会を準備するヒマも、ロクになかったのです。

六月二十日になって、なんとか予選会を開いたものの、一日で選手を決定しなければならなかった広瀬や山本は、一日に七試合も出場したのです。

"本番"より苦しかった予選

五月下旬から三週間もかかって、大阪市中学大会を終ったばかりだというのに…。そして翌二十一日からは大阪府中学大会も控えていたのです。選手はこいため、朝から夜にかけ、第三次予選までを行ない、一次ごとに二人ずつ選手を決めていきました。

試合は15ポイントの一本ゲーム、選手は少しのミスも許されません。三次で代表の座を獲得の強行スケジュールに、よく耐えてくれました。

大阪、近畿などの中学大会で勝つことは、全国大会に優勝することよりも苦しいのです。こうした試合を勝ち抜いてきた六人の少女は、本番の試合では、むしろ予選よりリラックスしていたので、わたしはただ、ベンチに坐っていただけでした。瀬野や秋本はゲームを楽しんでいるかのようにさえ見えました。不謹慎ないい方とお叱りを受けるかもしれませんが、勝って当然の大会だったと思います。

最後に将来の大会に対する希望を一言。できれば個人数も加え、団体戦は2複3単にしてほしい。それから、後半になってあいているコートを利用、敗者同士の親善試合をやってみたら……。選手も指導者も、こんな機会でないと、胸を開いて話し合えないのです。

第一回大会をかえりみて

日本協会常務理事
中学高校担当
遠井稔男

日本バドミントン協会はトップ・プレーヤーの強化とともに小中学生、一般国民の愛好者の指導育成も手がけている。その一策として、指導委員会を中心とした全国中学生の大会を一昨年から準備していた。

開催については、いくつか問題があったが、最終的には東京都協会、とくに都教職員の方々のご努力が実を結び、成果を収めることが出来た。

以下、大会を反省しながら、今後の資料としたい。

●共催の件について

今年度は十三の競技が全国中学大会を開いたが、このうち中体連(全国中学校体育連盟)が共催に加わったのが十、単独二、バドミントンは〝後援〟だった。中体連が日本協会と共催するかどうかは、運営全般や、費用にも影響を及ぼす。今回、共催者になってもらえなかったため出場校に大変、迷惑をかけた点が多い。次回からは中体連の要望条件に合うよう努力、手をつなげるようにしたい。

●期日と経費について

今回はやむを得ず七月としたが中体連は「八月十五日―二十日」を原則的に要望している。日本協会としてはこれに合うよう調整が必要だ。

経費は、大会分担金は参加都道府県。参加者経費は自己負担であったから実際は参加県協会の全額または一部負担がかなりあった。

関係者の中学生選手に対する愛情の深さを示したものであるが、次回からは日本協会としても、選手が義務教育過程にある点を考慮、参加者経費を全額とまではいかなくとも、負担するよう努力したい。

川端理事長も、相当のことを考えているとのことである。

●中体連専門部の組織化

出場都道府県の代表者会議で「全国中体連バドミントン連絡協議会」が結成された。代表に都中体連バドミントン部長の茂木先生をはじめ、都の池田先生富山の芝田先生、宮城の菅原先生が選ばれた。

これによって、今後、中体連バドミントン部がいちぢるしい進歩をとげるであろうと期待している。

また、問題点として取り上げられるであろうチーム編成や試合方法、得点などについて、充分、研究して、充実したものにしてほしい。

さらに連絡協議会を、一日も早く全国中体連専門部の組織の結成をはかってもらいたい。

●技術について

体力づくりと基礎技術に忠実であってほしい。この大会は素晴らしい素質発現の場であり、大会に勝ったがために、生半可な選手に終わったりしないよう将来の大樹を長い目で育ててほしい。ゆっくり着実に体、技を積んでもらいたい。一人一人の選手に、長い長い選手生活を送らせたいと願うのは、私ひとりではあるまい。

ダブルスについては、とくに見るべきものはなかった。

型にはまらず、シャトルが上がれば、上からたたき打つ。打たれたら思いきり大きく、最後方に返す――ということを心掛けてほしい。

シングルスでは、何人かいい素材が目につき、将来を楽しませた。

後方を深くついて返されたハイクリアーはスマッシュに、またはネットにドロップを落すなど、一応、まとまったプレーをしているものが多かった。

ただし、サーブ技術については、まだまだ、研究の余地があると思われる。

印象深かった高校生の審判

≪次回、中体連との共催に努力≫

●大会運営雑感

都バドミントン協会が主管し中体連専門部員、教職員、高体連関係者が一丸となって運営に当ったところは、さすが東京大会運営に慣れたものである。

特に印象深かったのは第一日目の高校生の審判団である。本当に申し分けない。

この大会のために、審判講習会もやったとのこと。さほどのミスもなく態度も立派であった。弟妹の試合を一生けんめいに応援するように、真剣な眼差しで審判している兄姉たち、信頼し安心しきって、のびのびプレーする弟妹たち。

すばらしい情景であった。これが学校教育の延長の場でありクラブ活動を通しての得がたい人間教育の場であると思った。

●監督・引卒者について

よいゲームをさせるには、よいコンディションづくりをしなければならない。監督・引卒者の任務は大変である。

好き嫌いの激しい中学生に、いかにカロリーの高い良質の蛋白質をとらせるとか、カロリー化の早い糖質をとるとか、刺激騒音の東京の夜をいかに早く熟睡させるか、あの大きな体育館を見ただけで、足がガクガクする選手をどう処置するか、トレーナー的コーチングの研究も必要であろう。

旅館が違うとか練習時間がないとか、駅に案内所を設けろとか、不親切だとの言葉よりは「まず第一回が開けてよかった。私達も少しでも協力します」の気持ちがほしかった。不平不満をいわず辛抱してこそ、次回の大きな反省となるのではないか。選手たちは全く息たえんばかりに「ガンバッテ」いたでしょう。

ひろがる沖縄援助の輪

＝第一次寄託者名簿＝

毎号、この欄では、愛読者のみなさんに対し「沖縄の仲間に用具などの援助を」と呼びかけご協力をお願いいたしております。

おかげさまで、しだいにその輪がひろがり、別記のように各地方、各関係組織の方々からの寄託があいつぎ、係り一同、大変、感謝いたしております。

寄託されました用具、金銭は近く区切りをつけて沖縄に送りますが、今後とも、愛情あふれる援助の手が続々、本誌あて送られますよう、よろしくお願いいたします。

《寄託者名簿》（敬称略）

▼**金二千円＝射越栄一**（日本体育協会普及課係長）

▼**金五千円＝天野辰雄**（広島県バドミントン協会会長）

▼**金二千七百円、ラケット五本、ラケットカバー一個＝日本女子体育大学バドミントン部一同**（谷沢三輪子、中島えり子、元橋美知子、吉田悦子、三原登美子、三上純子、池田美加、井指多恵子、大田和子、川村正好、遠藤久美子、塩崎睦子、鈴木範子、時田栄子、矢野恵美子、津久井薫、島悦子、田中真由美、岩本恵里子、樋口智子、甲州香、小林恵子、高林綾子、四倉京子、鈴木真知子、石田雅子、吉田孝子）

▼**ラケット二本、プレス（ダブル）一個＝専修大学**バドミントン部（代表・池田茂樹ほか）

▼**金一千三十五円、ガット二張り＝関東学生**バドミントン連盟（代表・鈴木信夫委員長）

▼**ラケット二本、シャトル半ダース、プレス一個＝桑原重行**（新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡己二七四九）

▲**ラケット四本＝安藤武夫**（東京都世田谷区大蔵町一三の七）

▼**シャトル一ダース＝後藤修一**（神奈川県鎌倉市台一の五の八）

▼**金二千円　後藤忠弘**（日本協会理事）

▼**金一千円　秦　浩**（日本協会広報委員）

《表紙》



塩崎睦子（日女体大）

昨年度の新人戦団体戦で、日本女子体育大は、彼女のシングルスの敗戦によって、優勝を逸した。コートのすみで大粒の涙を浮かべ、必死にくやしさをこらえている姿が印象的だった。

〝負けん気〟の強い選手なのだろう、その後の個人戦では、みごと新人王になっている。

名門・高岡商高の出身。女子としては新興のチームだが、彼女の活躍でベスト8入りしている。大学に進み、一年生の五月関東学生選手権で、いきなり堀川（日体大）を破りベスト4。

東日本学生ベスト8、新人戦は単複とも優勝、二年生で東日本学生単二位、複優勝と順調に伸びている。

東大阪短大の台頭で〝西高東低〟の感のある女子学生界では〝東〟における彼女への期待は大きい。テンション（緊張度）の強い選手ということだが、本人が考え込まないことが第一。明るい性格、ムダのない体つき、162㌢の身長と、将来性は十分。趣味は手芸、レコード、短大生だが、四年制へ編入し競技を続けたい意向のようだ。

《編集室から》

関係各方面が夏休み、大会の連続等のため、編集が遅れ、まけとに申しわけない、毎度のことながら、紙上を借りておわび申しあげます。

○…ゆれ動く中国問題。毎日のように変っていく世界情勢の中で、バドミントンはいかにあるべきか、少々、硬い話だが、愛好者すべてが理解しておくべき問題だと考え、特集してみました。日本協会に設けられた日中交流部会も、本号が読者の手元に届くころには、動き出しているはず。

○…今月、もう一つの特集は中学生大会。本当は、もっとページをさきたかったのだが、全体とのかね合いで、やむを得ず最小限度にとどまった。この大会で気ずいたこと一つ。実際の担当役員（ごく少数）を除くと日本協会執行部の人々で、試合そのものを見に来た人が、ほとんどいなかった。中体連・高体連、東京都協会に運営は一任されていたが、だから日本協会には関係ないのか。これでは中央と現場・地方との意志疎通、理解は生まれない。

○…読者の要望が二つに分かれている。いわく面白い読みものを、いわく、具体性ある技術講座を——近々に、その要望をいくらかでも満たせるよう、企画をねっている。ただし、この雑誌の性格上、大会の記録も最小限必要なのでご理解を。

★本号の協力スタッフ／表紙撮影・松井亮磨／同制作・小浜正道／グラフ撮影・山田真市／カット／秦浩・芦間登美子ほか

【バドミントン界】第24号
昭和46年7月25日印刷
昭和46年8月1日発行
編集兼発行人　川端昇市
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一　岸記念体育会館内　日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一　四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都中央区八丁堀二の八の二　有限会社和田印刷所
定価　一部百円

昭和46年度日本バドミントン協会推奨用具

	銘柄名		会社名
ラケットの部	№B-70 セブンティー	¥5,000	河崎ラケット工業株式会社
	№B-69 ブルーリース	¥3,500	〃
	№1,200 スタミナデラックス	¥2,800	〃
	№1,000 スタミナ	¥2,200	〃
	№ 201 ウィニングコース	¥1,500	〃
	№ 206 エバーウィン（張上り）	¥1,200	〃
	№ 208 エバーウィンジュニア（張上り）	¥1,200	〃
	№ ダンロップマックスプレイフォート	¥4,320	株式会社 諸江製作所
	№3,500 キングメイト	¥3,300	〃
	№3,333 ゴールドキング	¥3,000	〃
	№3,000 ゴールドキング	¥2,500	〃
	№2,000 キングクリッパー	¥1,500	〃
	№1,000 シルバーデラックス	¥1,400	〃
	№ 800 ダンディ	¥1,000	〃
	№T—1 エクセレント	¥3,500	大阪合繊株式会社
	№ 2 ハイ・スピード	¥3,500	〃
	№ 3 ハイ・トーマス	¥3,000	〃
	№ 10 フィアレス	¥2,500	〃
	№ 20 プロフェショナル	¥2,000	〃
	№ 30 フェニックス・インペリアル	¥1,500	〃
	№ 80 ピーコック	¥1,000	〃
	№ 90 クラブモデル	¥ 700	〃
	## 8,000 アルミナハイパワー	¥4,000	株式会社ヨネヤマラケット
	## 7,000 アルミナエース	¥4,000	〃
	## 6,500 トップエース	¥3,500	〃
	## 6,000 ファイブエースデラックス	¥3,500	〃
	## 5,000 ファイブエース	¥3,000	〃
	## 4,000 カレッジエイトデラックス	¥2,500	〃
	## 3,000 カレッジエイト	¥2,000	〃
	## 2,000 キングダイヤ	¥1,600	〃
	## 1,000 クィーンハート	¥1,300	〃
	## 8 スリーエイト	¥1,000	〃
	## 7 ラッキーセブン	¥ 800	〃
	キャリー 7	¥2,500	株式会社 メトロ
	カァルトンラケット 3ポイント7	¥5,800	〃
	カァルトンラケット 3ポイント9	¥4,800	〃
	№4,000 ニューアルバート	¥2,500	株式会社 トヨダスポーツ
	№3,000 ニューブルー	¥2,000	〃
	№2,000 ニューブラック	¥1,500	〃
	№1,000 ニューミニ	¥1,200	〃
	№ 8 ウインナー	¥ 900	〃
ウェアーの部	№ 500 半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,200	河崎ラケット工業株式会社
	№ 510 半袖シャツエイトロック（男子）	¥ 900	〃
	№ 518 半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,600	〃
	№ 502 長袖シャツエイトロック（男子）	¥1,300	〃
	№ 532 ショートパンツストレッチ	¥1,700	〃
	№ 533 ショートパンツ（男子）インサイドベルト付	¥1,500	〃
	№ 535 ショートパンツ（男子）	¥1,000	〃
	№ 525 長スボンストレッチ（男子）	¥3,000	〃
	№ 500 半袖シャツエイトロック（女子）	¥1,200	〃
	№ 510 半袖シャツ（女子）	¥ 900	〃
	№ 595 スコート（プリーツ）	¥1,100	〃
	№ 592 スコート（ボックス）（ユーバ型）	¥1,500	〃
	№ 590 スコート（フレアー）	¥1,500	〃
	№ 505 ノースリーブシャツ	¥1,200	〃
	№ 502 半袖・長袖シャツ（女子）	¥1,300	〃
	№ 518 ライン入りシャツ（女子）	¥1,600	〃
	## 104 ショートパンツ	¥1,600	株式会社ヨネヤマラケット
	## 105 ショートパンツ	¥1,400	〃
	## 106 ショートパンツ	¥1,100	〃
	## 107 シャツ（男子）	¥1,100	〃
	## 108 〃	¥1,400	〃
	## 109 〃	¥1,500	〃
	## 200 ミニスカート	¥1,800	〃
	## 201 〃	¥1,600	〃
	## 202 〃	¥1,200	〃
	## 203 〃	¥1,100	〃
	## 204 シャツ（女子）	¥1,400	〃
	## 205 〃	¥1,400	〃
	## 206 〃	¥1,500	〃
シューズの部	№ 396 チャンピオン	¥1,300	河崎ラケット工業株式会社
	№ 392 ジュニア	¥ 850	〃
	№ 390 5ポイント	¥1,000	〃
	バドミントンシューズ	¥1,400	株式会社ヨネヤマラケット

◆全国高校選手権地方予選

（前号で一部既報）

▼…男子…▲

【長野県】

◆団体戦

▼決勝

須坂 3―1 岡谷南

船本田 0(3―10―1515) 2 宮坂三沢

鶴田津 2(1515―13) 0 小口鎌

神津 2(1015―5―1115) 1 小口

鶴田 2(1515―10―1215) 1 宮坂

神津 2(1015―5―1115) 1 小口

◆シングルス

▼準決勝

鶴田（須坂）2―0小口南（岡谷）

宮坂（岡谷南）2―1中谷（伊那北）

▼決勝

鶴田 2(1512―15―9) 1 宮坂

◆ダブルス準決勝

三沢・宮坂 2―0松橋・山際（長野）

神津・鶴田 2―0中沢・上崎（長野）

▼決勝

三沢宮坂 2(1515―1011) 0 神津鶴田（岡谷南）（須坂）

【秋田県】

◆団体戦決勝

秋田経大付 3―0秋田市立

◆シングルス準決勝

長谷川（経大付）2―0新泉（経大付）

池田（経大付）2―0佐藤（経大付）

▼決勝

長谷川 2(1515―12) 0 池田

◆ダブルス準決勝

岡部・長谷川 2―0佐藤・新泉（経大付）

池田・安達（経大付）2―1小松・渡部（経大付）

▼決勝

岡部長谷川 2(1515―5) 0 池田達

【広島県】

◆団体戦 決勝

北川工 3―1福山電波工

田口中 1(7―1516―151017) 2 麻岡恒生

福谷 2(1518―14) 0 青木村山

宇都宮 2(1518―1013) 0 岡恒

福谷 2(1515―1312) 0 青山

◆シングルス 準決勝

宇都宮（北川工）2―0福谷（北川工）

田中（北川工）2―1森川（福山葦陽）

▼決勝

田中 2(1515―14) 0 宇都宮

◆ダブルス準決勝

福谷・田口 2―0森川・渡辺（福山葦陽）

宇都宮・田中 2―0麻生・岡恒（福山電波工）

▼決勝

福谷田口 2(1515―1010) 0 宇都宮田中

【青森県】

◆団体戦 決勝

東奥義塾 3―0弘前実業

三浦士 2(1515―17) 0 笹森天坂

木村一戸 2(1515―1018) 1 一戸小枝

須藤 2(1515―7) 0 一戸

◆シングルス 準決勝

須藤（東義）2―0大川（東義）

三浦（東義）2―0笹森（弘実）

▼決勝

須藤 2(1514―17) 1 三浦

◆ダブルス 準決勝

三浦・福士 2―0木村・一戸（東義）

大浦・佐々木 2―1笹森・天坂（弘実）（八商）

▼決勝

三浦士 2(1515―8) 0 大浦佐々木

【奈良県】

◆団体戦 決勝

正強 3―0 一条

中井南 2(1515―16) 0 茶谷棟田

西川佐野 2(1515―3) 0 辰己杉本

中井 2(1515―9―1015) 1 茶谷

◆シングルス 準決勝

西川（正強）2―1辻（添上）

中井（正強）2―1佐野（正強）

▼決勝

西川 2(1511―15―6) 1 中井

◆ダブルス 準決勝

西川・佐野（正強）2―0佐藤・石川（天理）

中井・南田（正強）2―0池田・山下（正強）

▼決勝

西川佐野 2(1515―9) 0 中井田

【新潟県】

◆団体戦 決勝

吉田商 3―2 新潟

佐野前山 1(1415―9―15―17―5―15) 2 伊藤上坂

竹野渡辺 0(3―14―1517) 2 清水今井

前山 2(1515―8) 0 伊藤

佐野 2(1515―9) 0 清水

竹野 2(1515―5) 0 渡辺

◆シングルス 準決勝

土田（三条商）2―1 前山（吉田商）

佐野（吉田商）2―0 小泉（新潟南）

▼決勝

佐野 2(1515―12―4) 0 土田

◆ダブルス 準決勝

小泉・小田（新潟南）2―0音田・三浦（新発田）

土田・鈴木（三条商）2―1佐野・前山（吉田商）

▼決勝

土田鈴木 2(1515―6) 0 小田泉

【栃木県】

◆団体戦 決勝

作新学院 3―0 真岡工

北条川 2(1815―4―17) 0 粕谷崎

小池鈴木 2(1711―18―1615―16) 1 浅川田

石川 2(1515―8―5―15) 1 石崎

◆シングルス 準決勝

笠野（小橋）2―0浅川（真岡工）

阿部（栃木）2―1池田（真岡工）

▼決勝

笠野 2(1515―3―0) 0 阿部

RECORD

◆ダブルス　準決勝

笠野・岩村　2—1　石崎・粕谷
（石橋）　（真岡工）
高島・森山　2—0　池田・浅川
（宇都宮工）　（真岡工）

▼決　勝

笠野岩村　2（15—13 5—15 1）　高島山

【和歌山県】

◆団体戦　決　勝

新宮　3—0　大成

山本2（1515—13）0岡
平瀬2（1515—4）0中森
中崎2（1515—8）0吉笹
潮田

山本2（1515—4 2）0森
西田

◆シングルス　準決勝

岡（新宮商）　2—0　吉田（大成）
山本（新宮）　2—0　倉内（新宮商）

▼決　勝

山本2（1515—13 3）0岡

◆ダブルス　準決勝

岡・倉内　2—0　中・潮崎
（新宮商）　（新宮）
山本・平瀬　2—0　大川・辻本
（新宮）　（新宮商）

▼決　勝

山平瀬2（15 15 16—10 6 17）1倉　岡内

【島根県】

◆団体戦　決　勝

松江商　3—0　松江北

原山陰2（1515—8 6）0平井
犬山清正2（1515—9 10）0原山（松商）
犬山清2（1515—1111）0原（松商）
犬山清正2（1515—2 3）0青谷
原山陰2（1515—7 11）0川木

◆シングルス　決　勝

◆ダブルス　決　勝

◆シングルス　準決勝

【山口県】

◆団体戦　決　勝

下関商　3—2　柳井商工

沖堀2—1上林
（柳井商工）　（柳井商工）
城2—0小林
（柳井商工）　（下関商）

▼決　勝

城2—0沖堀

◆ダブルス　準決勝

沖堀・城　2—0　森・福田
（柳井商工）　（下関商）
西本・上林　2—0　荒井・富野
（柳井商工）　（下関西）

▼決　勝

沖堀・城　2—0　西本・上林

【兵庫県】

◆団体戦　決　勝

星陵　3—2　甲商

吉谷（甲南）　2—1　松本（灘）
北村（甲南）　2—0　高木（甲南）

▼決　勝

北村2（1515—6 2）0吉谷

◆シングルス　準決勝

竹内・玉利　2—0　高木・北村
（星陵）　（甲南）
多月・津田　2—0　原口・河俣
（姫路）　（星陵）

▼決　勝

竹玉内利2（1515—7 7）0多月津田

◆ダブルス　準決勝

【長野県】

◆団体戦　決　勝

長崎東　3—0　瓊浦

◆シングルス　準決勝

森重（長東）　2—1　町田（瓊浦）
松下（諫）　2—0　山道（瓊浦）

▼決　勝

森重2（1515—7 9）0松下

◆ダブルス　準決勝

町田・山道　2—1　荒木・大東
（瓊浦）　（長南）
松下・森　2—1　川久保・小森
（諫）　（瓊浦）

▼決　勝

町山田道2（1515—5 3）0松下

【石川県】

◆団体戦　決　勝

金沢市工　3—1　七尾工

米田2（1515—3 4）0高野
山下島2（15 10 15—10 15 8）1田木
米田2（1515—6 11）0田上
山下0（3 2—15 15）2高木

◆シングルス　準決勝

高本（大聖寺）　2—1　原（金沢市工）
米田（金沢市工）　2—1　高木（七尾工）

▼決　勝

高本2（17 15 5—14 4 15）1米田

◆ダブルス　準決勝

米田・原　2—1　松田・舛田
（金沢市工）　（七尾商）
山下・鴇　2—1　高橋・鈴木
（金沢市工）　（金沢市工）

▼決　勝

米原田2（15 15 12—6 4 15）1鴇山下

【京都府】

◆団体戦　決　勝

京都商　3—2　鴨沂

◆シングルス　準決勝

山本（鴨沂）　2—1　横内（京商）
宮崎（鴨沂）　2—1　吉田（京商）

▼決　勝

宮崎　2—0　山本

◆ダブルス　準決勝

酒井・奥村　2—0　富岡・岡村
（洛星）　（西京）
山本・宮崎　2—0　横内・吉田
（鴨沂）　（京商）

▼決　勝

酒井・奥村　2—1　山本・宮崎

【福岡県】

◆団体戦　決　勝

明善　3—0　明善定時

緒方2（1515—12 9）0池手
吉浦
中田山中2（15 15 15—1 15 4）1国分
緒方2（1515—9 11）0池端

◆シングルス　準決勝

井浦（八幡西） 2—1 中山（明善）
国分（明善定時） 2—0 矢野（西南）

▼決勝

井浦 2（15—8—17—13—15—16）1 国分

◆ダブルス 準決勝

中山・田中 2—0 山口・広川（明善）
平山・瀬川 2—1 本村・牟田（小倉商）（明善定時）

▼決勝

中田 中山 2（15—15—4—4）0 平川

◆団体戦 決勝

名古屋電気工高 3—2 東海高

◆シングルス 準決勝

横井 2（15—15—4—3）0 鈴木
青山 2（15—8—15—6—15—10）1 小林
黒柳 0（13—9—15—15）2 森上
青井 2（15—15—7—2）0 森上
伊藤 0（5—7—15—15）2 小林木
香村 0（5—7—15—15）2 小林木

【愛知県】

◆団体戦 決勝

高松商高 3—2 坂出工高

◆シングルス 準決勝

栗木 2（15—15—6—11）0 古河
中下 1（6—7—15—15—1—2）竹林 2
中原 2（15—15—1—9）0 田中
栗谷 1（4—15—12—15—11—5）2 竹内林
中原 2（15—15—7—2—5—15）1 古田河

【香川県】

◆団体戦 決勝

北海 3—2 札幌西

◆シングルス 決勝

赤石 2（15—18—6—15）0 村上
赤石 0（13—6—15—15）2 高木
小野寺 2（15—9—15—2—15—6）1 花井
竹内 0（1—11—15—15）2 高木藤
小山 野寺川 2（15—15—6—9）0 村花井

【南・北海道】

◆団体戦 決勝

中原 2（15—17—8—14）0 北栗谷

▼決勝

中原 2（15—15—7—9）0 竹林

◆ダブルス 準決勝

中原・木下 2—0 田中・古河（高松商）（坂出工）
栗・北谷 2—1 竹林・竹内（高松商）（坂出工）

▼決勝

竹林（坂出工） 2—0 木下（高松商）
中原（高松商） 2—0 栗（高松商）

◆シングルス 決勝

高木 2（15—7—2—0）熊谷（札西）（江別）
佐藤 2（15—4—4—0）松本（札西）（札工）

◆ダブルス 決勝

【北・北海道】

◆団体戦 決勝

帯広農 3—1 羽幌
福島 2（15—18—9—16）0 七田渋谷 伊勢
下蛸井野 0（6—12—15—15）2 木村北村
福島 2（15—15—11—5）0 嶋本
下野 2（15—15—4—8）0 北村

◆シングルス 決勝

上田（留萌） 2（15—15—5—4）0 北村（羽幌）

◆ダブルス 決勝

下蛸井野 2（15—13—15—11—18—6）1 北村木村（帯広農）（羽幌）

▼…女子…▲

【長野県】

◆団体戦 決勝

諏訪二葉 3—0 伊那弥生ケ丘
川上 2（12—11—10—5）0 小林宮原
中野西 2（11—11—3—4）0 大片桐平
佐久間 2（11—11—9—5）0 宮原

◆シングルス 準決勝

友野（二葉） 2—1 佐久間（二葉）
川上（二葉） 2—1 永井（岡谷東）

▼決勝

友野 2（11—11—2—5）0 川上

◆ダブルス 準決勝

市川・川上 2—0 林・永井（二葉）（岡谷東）
小林・宮原 2—0 中西・友野（弥生ケ丘）（二葉）

▼決勝

市川 川上 2（12—11—11—7）0 小林宮原

【秋田県】

◆団体戦 決勝

羽後 3—0 敬愛

◆シングルス　準決勝

高橋（羽後）　2―0　北島（和洋）
佐藤（敬愛）　2―0　三浦（敬愛）

▼決　勝

高　橋　2（11011―12―8）1　佐　藤

◆ダブルス　準決勝

武田・高橋　2―1　佐藤・沢本（羽後）（敬愛）
丸谷・佐藤　2―0　村井・北鴨（羽後）（和洋）

▼決　勝

武　田　2（1715―14―0）0　丸　谷
高　橋　　佐　藤

【広島県】

◆団体戦　決　勝

福山葦陽　3―0　至誠女子

小林（福山葦陽）　2―1　相方（福山葦陽）

▼決　勝

山　内　2（1111―8―3―5―11）1　小　林

◆ダブルス　準決勝

小林・山内（福山葦陽）　2―0　中島・小川（福山葦陽）
下江・山本（至誠女子）　2―0　相方・高橋（福山葦陽）

▼決　勝

小　林　2（1515―6―11）0　下　江
山　内　　山　本

【青森県】

◆団体戦　決　勝

浪岡　3―2　弘前学聖愛

◆シングルス　準決勝

加藤（浪岡）　2―1　武部（千葉）
榊（東女）　2―0　竹内（浪岡）

▼決　勝

加　藤　2（11―6―6―11キケン）1　榊

◆ダブルス　準決勝

榊・浜田　2―0　浅利・伊藤（東女）（浪岡）
加藤・福士　2―0　三上・吹田（浪岡）（聖愛）

▼決　勝

加　藤　2（15―6―6―15キケン）1　浜　田
福　士　　榊

【奈良県】

◆団体戦　決　勝

一条　3―0　添上

古谷（一条）　2―0　焼田（一条）
佐伯（一条）　2―0　三浦（一条）

▼決　勝

佐　伯　2（1112―10―4）0　古　谷

◆ダブルス　準決勝

佐伯・古谷　2―0　草合・増田（一条）（奈良商）
焼田・田宮　2―0　仲西・原田（一条）（一条）

▼決　勝

佐　伯　2（1515―3―4）0　焼　田
古　谷　　宮　田

【新潟県】

◆団体戦　決　勝

新潟青陵　3―2　三条東

◆シングルス　準決勝

佐久間（新発田商工）　2―0　藤間（西新発田）

高野（新潟中央）　2―0　長谷川（三条東）

▼決　勝

高　野　2（1112―11―2）0　佐久間

◆ダブルス　準決勝

海老名・長谷川（三条東）　2―0　高橋・土田（新潟女子）
小林・高野（新潟中央）　2―0　小塚・白井（三条東）

▼決　勝

小　林　2（1715―9―14―9）0　海老名
高　野　　長谷川

【栃木県】

◆団体戦　決　勝

真岡農　3―0　足利女子

◆シングルス　準決勝

小林（福山葦陽）　2―0　小川（福山葦陽）

▼決　勝

山　内　2（1111―4―7）0　下　江
小　川　　稲　垣

◆シングルス　準決勝

山内（福山葦陽）　2―0　小川（福山葦陽）

▼決　勝

武　田　2（1715―14―0）0　丸　谷
高　橋　　佐　藤

◆団体戦　決　勝

福山葦陽　3―0　至誠女子

小林（福山葦陽）　2―1　相方（福山葦陽）

▼決　勝

山　内　2（1111―8―3―5―11）1　小　林

◆ダブルス　準決勝

小林・山内（福山葦陽）　2―0　中島・小川（福山葦陽）
下江・山本（至誠女子）　2―0　相方・高橋（福山葦陽）

▼決　勝

小　林　2（1515―6―11）0　下　江
山　内　　山　本

【青森県】

◆団体戦　決　勝

浪　岡　3―2　弘前学聖愛

◆シングルス　準決勝

加藤（浪岡）　2―1　武部（千葉）
榊（東女）　2―0　竹内（浪岡）

▼決　勝

加　藤　2（11―6―6―11キケン）1　榊

◆ダブルス　準決勝

榊・浜田　2―0　浅利・伊藤（東女）（浪岡）
加藤・福士　2―0　三上・吹田（浪岡）（聖愛）

▼決　勝

加　藤　2（15―6―6―15キケン）1　浜　田
福　士　　榊

【奈良県】

◆団体戦　決　勝

一　条　3―0　添　上

古谷（一条）　2―0　焼田（一条）
佐伯（一条）　2―0　三浦（一条）

▼決　勝

佐　伯　2（1112―10―4）0　古　谷

◆ダブルス　準決勝

佐伯・古谷　2―0　草合・増田（一条）（奈良商）
焼田・田宮　2―0　仲西・原田（一条）（一条）

▼決　勝

佐　伯　2（1515―3―4）0　焼　田
古　谷　　宮　田

【新潟県】

◆団体戦　決　勝

新潟青陵　3―2　三条東

◆シングルス　準決勝

佐久間（新発田商工）　2―0　藤間（西新発田）

高野（新潟中央）　2―0　長谷川（三条東）

▼決　勝

高　野　2（1112―11―2）0　佐久間

◆ダブルス　準決勝

海老名・長谷川（三条東）　2―0　高橋・土田（新潟女子）
小林・高野（新潟中央）　2―0　小塚・白井（三条東）

▼決　勝

小　林　2（1715―9―14―9）0　海老名
高　野　　長谷川

【栃木県】

◆団体戦　決　勝

真岡農　3―0　足利女子

◆シングルス　準決勝

高橋（羽後）　2―0　北島（和洋）
佐藤（敬愛）　2―0　三浦（敬愛）

▼決　勝

高　橋　2（11011―12―8）1　佐　藤

◆ダブルス　準決勝

武田・高橋　2―1　佐藤・沢本（羽後）（敬愛）
丸谷・佐藤　2―0　村井・北鴨（羽後）（和洋）

▼決　勝

武　田　2（1715―14―0）0　丸　谷
高　橋　　佐　藤

【広島県】

◆団体戦　決　勝

福山葦陽　3―0　至誠女子

小林（福山葦陽）　2―1　相方（福山葦陽）

▼決　勝

山　内　2（1111―8―3―5―11）1　小　林

◆ダブルス　準決勝

小林・山内（福山葦陽）　2―0　中島・小川（福山葦陽）
下江・山本（至誠女子）　2―0　相方・高橋（福山葦陽）

▼決　勝

小　林　2（1515―6―11）0　下　江
山　内　　山　本

【青森県】

◆団体戦　決　勝

浪　岡　3―2　弘前学聖愛

◆シングルス　準決勝

加藤（浪岡）　2―1　武部（千葉）
榊（東女）　2―0　竹内（浪岡）

▼決　勝

加　藤　2（11―6―6―11キケン）1　榊

◆ダブルス　準決勝

榊・浜田　2―0　浅利・伊藤（東女）（浪岡）
加藤・福士　2―0　三上・吹田（浪岡）（聖愛）

▼決　勝

加　藤　2（15―6―6―15キケン）1　浜　田
福　士　　榊

【奈良県】

◆団体戦　決　勝

一　条　3―0　添　

◆シングルス　準決勝

藤井（真岡女）　2―0　高瀬（今市）

竹田（真岡農）　2―0　山口（足利女）

▼決　勝

藤井　2（1111―14）0　竹田

◆ダブルス　準決勝

竹田・青柳（真岡農）　2―0　上野・石田（石橋）

藤井・沼能（真岡女）　2―0　宮沢・戸田（宇都宮女商）

▼決　勝

藤井沼能　2（1515―139）0　竹田青柳

【和歌山県】

◆団体戦　決　勝

新宮商　3―1　御坊商工

◆シングルス　準決勝

和田久保　2（1515―101215）1　楠本若崎

湯川北崎　0（1312―1815）2　上山本

和田　2（1112―69）0　若崎

湯川　2（1112―89）0　坂本

◆シングルス　決　勝

楠本（御坊商工）　2―1　湯川（新宮商）

和田（新宮商）　2―0　平田（新宮）

▼決　勝

楠本　2（12712―111111）1　和田

◆ダブルス　準決勝

上山・坂本（御坊商工）　2―0　湯川・北崎（新宮商）

和田・久保（新宮商）　2―1　畑野・丸野（耐久）

▼決　勝

上坂本　2（1515―1111）0　和久保田

【島根県】

団体戦　決　勝

松江商　3―0　松江家政

◆シングルス　決　勝

樋野　2（1111―39）0　大廻

高木尾　2（151711―71615）1　水坂根凌

樋野原　2（1515―47）0　曽田廻

◆ダブルス　準決勝

樋野（松商）　2（1112―211）0　曽野（松江家政）

米原（松商）　2（1515―240）曽廻田（松江家政）

【山口県】

◆団体戦　決　勝

長府高　3―2　下関南高

◆シングルス　準決勝

磯部（高森）　2―0　松島（長府）

門田（長府）　2―1　山下（長府）

▼決　勝

門田　2―0　磯部

◆ダブルス　準決勝

末岡・門田（長府）　2―0　岩井・市岡（高森）

中村・渡辺（下関南）　2―0　後藤・磯部（高森）

▼決　勝

末岡・門田　2―0　中村・渡辺

【兵庫県】

◆団体戦　決　勝

尼崎西　3―2　園田学

◆シングルス　決　勝

桝谷　2（1112―611）0　桜井

山上　2（121110―9412）1　佐円

渋谷　0（キケン）2　南口

桝谷　2（1112―311）0　林

渋谷　2（151415―1117 5）1　林南口

大場　0（68―1515）2　佐角野

山上　2（121110―9412）1　佐円

▼決　勝

桝谷　2（1112―611）0　桜井

桜井（市尼崎）　2―0　中林（市尼崎）

◆ダブルス　準決勝

南口・林（園田）　2―0　淡路谷・今井（市神戸商）

桜井・中林（市尼崎）　2―0　桝谷・渋谷（尼崎西）

▼決　勝

桜井　2（1515―86）0　林南口

【長崎県】

◆団体戦　決勝

鶴　鳴　3―2　長崎商

◆シングルス　準決勝

小浜（鶴鳴）　2―0　土井（長商）

樋口（長商）　2―0　川本（鶴鳴）

▼決　勝

小　浜　2（1112―611）0　樋　口

◆ダブルス　準決勝

小浜・川本（鶴鳴）　2―0　樋口・樋口（長商）

土井・斎藤（長商）　2―0　関・上山（鶴鳴）

▼決　勝

小川　浜本　2（151511―3615）1　土斎井藤

【石川県】

◆団体戦　決　勝

津幡　3―2　藤花

小原　0（13―1111）2　架谷

梶南　2（1515―770）中光林河

気小谷原　1（1617 2―171515）2　架麟谷香

南 2(12-11-9-3)0 光林
気谷2(11-11-6-4)0麝香

◆シングルス 準決勝
架谷(藤花) 2—0 小原(津幡)
南(津幡) 2—0 石代(金沢商)

▼決 勝
架谷2(11-11-9-3)0南

◆ダブルス 準決勝
坂口・石代 2—1 南・梶(津幡)
(金沢商)
架谷・麝香 2—0 小原・気谷
(藤花) (津幡)

▼決 勝
架谷麝香2(15-13-13-3)0坂口石代

【京都府】

団体戦 決 勝
成安 3—0 洛北

◆シングルス 準決勝
谷(成安) 2—0 中原(平安)
服部(成安) 2—1 収野(成安)

▼決 勝
谷 2—1 服部

◆ダブルス 準決勝

収野・辻井 2—0 瀬尾・稲垣
(成安) (洛北)
谷・井上 2—0 上村・細見
(成安) (亀岡)

▼決 勝
谷・井上 2—1 収野・辻井

【福岡県】

◆団体戦 決 勝
九州女 3—1 明善高

森山尾2(15-15-5-5)0荒井村
的野0(6-11-5-5)2宮崎森
伊藤 山2(11-11-5-6)0荒井
森 松尾2(11-11-2-7)0宮崎
松

◆シングルス 準決勝
松尾(九州女) 2—0 的野(九州女)
宮崎(明善) 2—0 荒井(明善)

▼決 勝
松尾2(11-8-11-8)1宮崎

◆ダブルス 準決勝
森山・松尾 2—1 松村・荒井
(九州女) (明善)
大森・宮崎 2—0 伊藤・的野
(明善) (九州女)

▼決 勝
森松山尾2(15-9-15-10)1宮崎

【南・北海道】

◆団体戦 決 勝
札幌北斗 3—1 江別

児玉2(15-15-2-3)0本間
渡辺2(11-11-2-7)0鈴木
高橋0(8-3-15-15)2佐藤
菅原 樺沢

◆シングルス 決 勝
児玉2(11-11-6-4)0樺沢

◆ダブルス 決 勝
青木2(15-11-15-5)1桜井
東志 深沢
(札幌北斗) (小樽商)
児玉2(11-11-6-3)0酒井
(札幌北) (札西)

【北・北海道】

◆団体戦 決 勝
新得 3—1 狗蜂

松田2(15-15-0-2)0横山
斎藤 松
高橋0(2-1-5-7)2宮嶋
山野垣 秋葉
松田2(11-11-4-1)0秋葉

斎藤2(11-11-3-0)0上口

◆シングルス決勝
小山田2(11-11-5-4)0松田
(帯広大谷) (新得)

◆ダブルス決勝
松田斎藤2(15-11-15-9-12-15)1小山田島野
(新得) (帯広大谷)

【愛知県】

◆団体戦 決 勝
高蔵女商高 3—1 時習館高

波多野田2(18-13-15-13-15-12)1加藤田
岩 熊
水山川谷1(16-18-14-18-13-17)2小池合
波多野2(11-11-3-0)0松井
岩田2(11-11-9-6-6-11)1熊田

◆シングルス 準決勝
波多野(高蔵女商) 2—1 岩田(高蔵女商)
山川(高蔵女商) 2—0 小川(守山女商)

▼決 勝
波多野2(11-11-3-1)0山川

◆ダブルス 準決勝

波多野・岩田 2—0 西山・沢田
(高蔵女商) (名古屋女商)
加藤・熊田 2—1 小池・河合
(時習館) (時習館)

▼決 勝
波多野田2(15-15-7-5)0加藤田
岩

【香川県】

◆団体戦 決勝
善通寺一高 3—0 女子商高

白玖2(11-11-6-15-10)1岡山
大矢根 田口
長尾2(15-11-11-12)0高笠
横田 原
白玖2(11-11-4-1)0岡田

◆シングルス 準決勝
白玖(善一) 2—0 高国(女子商)
大矢根(善一) 2—1 久保(女子商)

▼決 勝
白玖2(11-11-0-3)0大矢根

◆ダブルス 準決勝
岡田・山口 2—0 長尾・横田
(女子商) (善一)
白玖・大矢根 2—0 安藤・石井
(善一)

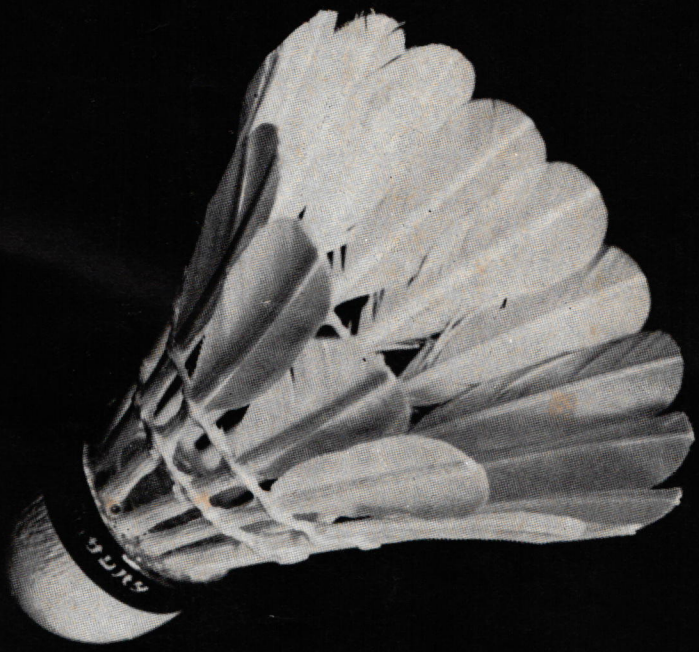
▼決 勝
白玖大矢根2(15-18-2-16)0岡山田口

RECORD

ブルーリースを敵にまわすな！



K
TOKYO
kawasaki
racket
東京都台東区台東2－28－5
電話　東京(03)831－1884・0453



新しい現代を生きるあなたに
20年の歴史を誇る〔サンバタ陸鳥検定球〕

陸鳥球は全国中学校大会使用球に決定しました。

サンバタ